

76-260

工G50



法學士 伊賀歌吉著

職業論

全
明治
40 8 4
肉交

東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區備後町四丁目

寶文館發賣

自序

婦人職業論は蓋し二十世紀の重要なる問題の一つに
數へらるべし。然るに之れに對して我が國に於ては
未だ曾て科學的論評を試みたる著作あるを聞かず。
無論問題が重要なだけ大家の之れに對する意見妙
からず、雖も皆是れ新聞雜誌に散見する短篇のもの
のみにして未だ根本的に此の問題に對する研究を發
表せしものあるを見ず。
予や淺學菲才未だ其の著書を公にするの資格なし。
されど平素常に此の重要な問題につき我が國に未
だ一の著作をもなきを遺憾とするものから曾て卒業

論文として研究せし結果を更に増補訂正して以て本書を著はすに至れり。されば其の材料の不充分なること。其の論斷の正確を缺くこと。乃至意見の前後一貫せざること等缺點として數ふべきもの多々之れあるべし。されど所謂無きに勝るものとして大方好學の士の講讀を仰ぐ。願はくは先輩の諸士微衷の存する所を察し此正の勞を惜まざらんことを。

明治四十年六月三十日

著 者 誌

参 考 書 目

- American Review of Review.
Bücher, Frauen und ihr Beruf.
Collet, Educated working women.
Countress of Aberdeen, Woven in Industrial Life.
" " Women in Profession.
Eliza Lehenhäuser, Erwerbsmäglicheitens Frauen.
Ernst Grosse, Die Formen der Familie und die Formen der
Wirtschafts.
Ellis, Men andl Women.
Kuhnow, Gedanken und Erfahrungen über Frauenbildung und

Frauenberuf.

Mayo-Smith, Statistics and Sociology.

Prof. Pierstorff, Zur Frauenfrage und Frauenberuf.

Stein, Die Frau in der Gebiete der

Nationalökonomie.

Roschor, Handel und Gewerfleiss.

Schnoller, Jahrbuch, 29.1905.

Stetson, Women and Economics.

統計集誌

統計年鑑

國勢一斑

婦人職業論目次

第一章 職業の意義

第二章 職業の種類

第三章 欧米に於ける婦人職業

第一節 緒論

第二節 概近に於ける欧米諸國の婦人職業

第一款 獨逸に於ける婦人職業

第二款 北米合衆國に於ける婦人職業

第三款 英國に於ける婦人職業

第四節 英米獨に於ける婦人職業と繰事の関係

第五節 結論

第四章 吾國に於ける婦人職業

第壹節 緒論

第貳節 維新以前の婦人職業

第參節 晩近に於ける婦人職業

第壹款 農業界に於ける婦人職業

第貳款 工業界に於ける婦人職業

第參款 商業界に於ける婦人職業

第四款 家婢

第五款 公務及び自由業界に於ける婦人職業

第五章 近世に於ける婦人職業増加の原因

第六章 婦人職業と男子職業との關係

第七章 婦人職業の得失

第壹節 道德上より見たる婦人職業の得失

第壹款 絶体的得失

第貳款 相對的得失

第參款 結論

第貳節 能力上より見たる婦人職業の得失

第壹款 積極論

第貳款 消極論

第參款 結論

第參節 個人經濟上より見たる婦人職業の得失

第四節 國民經濟上より見たる婦人職業の得失

第壹款 勞働市場の狀態より見たる婦人職業の得失

第貳款 生産的方面より見たる婦人職業の得失

第參款 結論

第五節 結論

第八章 婦人職業の將來

附 録

吾現行法と婦人職業

婦人職業論

法學士 伊賀歌吉著

職業の意義

せんとするに當りては其根本的觀念として職業を定するの必要あり。故に余は先づこゝに職業なるせんと欲す。然れども此職業なる語は普通之れを以て用ゆるが如く其意義も亦た人により時により將た所によりて種々に用ひられ殆んど其要を求むるに苦しむ。今最も普通に用ひらるる所を見るに廣狹二意あるものゝ如し。彼の道徳家、宗教家等の用ゆる所のものは多く前者にして、經濟學者及び法律家等の用ゆる所のものは多く後者なるが如し。而して廣義の職業なる意義に従へば人苟しくも他人の

寄生蟲とならず若しくは祖先傳來の遺産等に頼りて醉生夢死する所の國家、社會の厄介物ならざる限り吾人が國家人類の爲めに貢獻する所の活動は總べて之れを稱して職業と云ふ。此意義によれば單に國家人類の爲めに貢獻する所の活動と云ふことすら具はれば之れを職業と稱するに足るものなるが故に、農工商業等は勿論救貧事業、孤兒救濟事業等の慈善事業も一種の職業たるを失はず。否極端に云へば彼の婦人の母たり妻たるの職責並に男子の夫たり父たるが如きことも亦た一種の職業たるを失はざるなり。然りと雖も余輩が本書に所謂職業なるものは斯の如き廣漠たる意味に於けるものにはあらずして寧ろ狭き意味に於ける職業なるなり。換言すれば通常法律上又は經濟上に用ひらるゝ所の職業なるものなり。然るに此狹義に於ける職業なるものに於ても法律家の用ゆる所の意味と經濟家の用ゆる所の意味とは亦た自ら多少の相違あるを免れざるなり。即ち或る法律學者は職業なるものを定義して、職業とは吾人が生活の爲め常業

とする所の活動を云ふと、此定義は素より決して誤れりと云ふにあらざれども未だ以て明瞭なる定義なりとは云ふ可からず。吾人の觀察する所に由れば經濟學者の用ゆる所の職業なる意義こそ最も明瞭にして且つ何人にも能く了解せられ得るが如し。故に左に此意味に於ける職業なるものに付て少しく述ぶる所あらんとす。

經濟學上に所謂職業なるものゝ意義を述ぶるに當りては先づ労働なるものゝ何たるかを明らかにせざる可からざるあり。蓋し職業なるものは之れを他方より見れば要するに労働(心身兩者の労働を包む)に外ならざればなり。而して此の労働なるものに於ても普通廣狹二義あり。前者に従へば

労働とは人類の欲望又は目的を達するに有用なる物換言すれば價值あるものを生産するが爲めになす所の行動を云ふ。

此廣義の労働なる意義に従へば單に人類のみならず動物其他各種機械

等に於ても亦た一種の労働あることとなるなり。然れども斯の如きは餘りに廣漠に失し吾人の所謂労働なるものにあらざるなり。吾人の普通に用ゆる所の労働なるものは狹義に於けるものなり。即ち労働とは人類の欲望又は目的を達するに足る所の價值ある物を生産する爲めに用ひらるゝ所の有意的并に合理的行動を云ふ。

(註) (1)……………經濟學の智識に乏しき讀者の爲に一言せん。余がこゝに物と云ふは有形物及び無形物の兩者を包む。生産とは物の効用(人類の欲望を充たすことを云ふ)を創造するか若しくは小なる効用を大ならしむる所の行爲を指すなり。素より物の生産と云ふときは最も多くの場合に於て有形物の生産なりと雖も近時經濟の進歩せる社會に於ては亦た多くの無形物の生産行爲あることを忘る可らざるなり。例へば學校教師、音樂師の如き是れなり。又た昔時に於ては物の効用を創造する行爲即ち所謂原始生産例へば農業のみが生産行爲なるが如く考へたり

と雖も是れ偏狹なる見解にして小なる効用を大となす所の行爲も亦た等しく生産行爲たるなり。加之經濟の發達は益此種の生産行爲を必要とすものなり。例へば工業は最も多くの場合に於て加工的行爲により商業は物の人的或は場所的移轉によりて小なる効用を大ならしむるが故に明らかに生産行爲たるなり。

(註) (2)……………有意的并に合理的行動ならざる可らざることは労働なる觀念に最も必要な點なり。即ち有意的とは行爲者に於て物を生産するの意志あることを必要とするなり。故に偶然途に千金を拾ふが如きは素より生産行爲にあらざるなり。又た合理的とは一國或は一時代に於て道徳習慣上善なり正なりとする所の行動ならざる可らざるを云ふ。故に盜賊的行爲の如きは素より生産行爲にあらざるなり。

労働なるものゝ意義大略上述せる所の如し。然らば職業なるものゝ意義如何と云ふに職業とは個人が或る種の労働に従事する状態を指すも

のなり。

然らば即ち労働と云ひ將た職業と云ふも其實異名同物なるものと知る可し。

近時歐米諸國并に吾國に婦人の經濟的獨立(Economical Independence of Women)と云ふも其意の存する所畢竟一般婦女子をして一定の職業に就かすめ以て其獨立經營の實を擧げしむ可しと云ふに外ならざるなり。

第二章 職業の種類

余輩の行論に必要な所のものは婦人に獨特なる職業の種類なれども斯の如きものは素より是れなきが故に茲に一般職業の種類を列記せんと欲す。蓋し婦人職業の種類も皆此一般職業の種類中に包含せらるべければなり。然りと雖も此一般職業なるものは其觀察の方面と標準とを異にするに隨ひ種々に分類さるゝものなるが故に素より一定のものあるにあ

らざるなり。余は唯其の重なるものを下に列記せんと欲す。

第一 本業と副業

本業副業なる詞は世人の常に之れを口にする所なりと雖も其區別に至りては多くは殆曖昧なるを免れざるなり。或は收入の大小によりて區別し個人又は家族の主たる収入源をなすものを本業と云ひ然らざるものを以て副業となすものあり。是れ大なる誤りなしと雖も未だ以て正當なりと云ふことを得ざるなり。余輩の考ふる所によれば本業と云ふは是れ副業ありてのことにして副業と云ふも亦た本業ありてのことなり。要するに個人又は家族が二種以上の職業に従事する場合に起る區別にして即ち此場合に主力を注いで従事するものを本業と云ひ餘力を以て營むものを副業と云ふ。素より主と云ひ従と云ふ亦曖昧なるを免れずと雖も既に本と云ひ副と云ふ語は自ら關係的の意味を包含するものなれば其明確なる區別を爲す能はざるは自然の理なり。要は唯だ各場合に於て其主力

の何れにあるやを見て以て區別するの外なかる可し。若し夫れ之れを具體的に云はんか個人の身分登記上職業として登記されたるものは本業にして然らずして個人又は其家族が營む所のものは是れ副業と云ふて可なり。唯こゝに一言注意す可きは此本業副業なる語は多く農業界に於て使用せらるゝものにして某學者の如きは此區別を以て農業に限らんとせり其見解狭きに失するが如きも然かも之れを事實上より見れば甚だしき誤りなきが如し。

第二、男女職業の關係より區別する時は次の如し。

甲、殆んど婦人の獨占到歸する職業例へば乳母及び裸婦等の如きもの

乙、婦人も殆んど男子と同様に從業し得るもの例へば小學校教員等の如きもの

丙、婦人も亦爲し得るも男子と競争する時は婦人の失敗に歸するもの

のにして最も多くの職業は大抵此種の職業に屬す

然れども此三つの區別も亦た素より明確なるものにあらずして時により所により將た人によりて異なるものなり。蓋し一方に於て國情の異なるあり、他方に於て社會の進歩するに従ひ男女職業の範圍自ら變遷するものあればなり。例へば裁縫業の如きは昔時にありては殆んど婦女子の獨占業たりしも今は寧ろ第三種の職業に近きつゝあるなり。

第三、職業の對價として受取る所の報償の名目の異なるに従ひて、俸給的職業、賃金的職業及び収益的職業の三つとなすことあり。即ち第一は其報償として受取るもの俸給なる名目に於てし第二は賃金なる名目に於てし第三は自己の計算に於て營まれたる企業の収益なるものに於てするもの是れなり。

第四、勞働に精神的勞働と肉體的勞働あるが如く職業も亦之れを精神的勞働によりて營まるゝ職業と肉體的勞働によりて營まるゝ職業との二

種に區別することを得べし。然れども精神的と云ひ肉體的と云ふも是れ單に關係的に云ひたるものに過ぎずして前者と雖ども全く身體を使用せずと云ふことなく後者と雖も全く精神を使用せずと云ふことは之れあらざるなり。何となれば心身は密接不離の關係を有すればなり。

第五、職業に従事して生産する所の貨物の有形なるや無形なるやを標準として有形的生産を目的とする職業と無形的生産を目的とする職業との二つに分つゝを得。例へば機械業、製絲業、麥科農田業等最も多くの職業は大低前者に屬し學校教師及び音樂師等の如きは後者に屬する職業に従事するものなり。

第七、職業に従事する所の場所を異にするによりて家内の職業と家外の職業との二つに區別することを得。素より多くの職業が家屋内に於てなされるものなるは明かなれども茲に家内と云ひ家外と云ふは如斯意味

に於けるものにあらずして職業者自身の住家を標準として云へるなり。即ち自己の住家に於て營まるゝ所のものは家内の職業にして、自己の住家を離れて他家に行きて營む所のものは家外の職業なり。されば彼の最も多く屋外に働く農業の如きも此第七の標準よりすれば家内の職業に屬するものととなり、之れに反して尤も多く屋内に働く所の學校教師、まつち紡績工業などは家外の職業に屬することとなる。

第八、以上述べたる七種の區別は多くは學理的或は抽象的のものにして實際上に於ては大なる効用なし。故に余は茲に實際上の便宜に基く分類をなさんと欲す。

佛人、ヘルチヨン氏の職業分類を見るに左の如し。

甲 原料の生産
 (イ) 土地の表面に於ける業務(漁業、獵業を含む)
 (ロ) 地中に於ける業務(採礦業)

乙 原料の變形及使用

(詳見すれば貨物の加工又は移轉により價値を創設或は増進するもの)

- (イ) 製造業
- (ロ) 運送業
- (ハ) 商業

丙 政務及自由業

- (イ) 公力に關するもの (秩序を保ち營業の安全を保護する軍人及び巡査の如きもの)
- (ロ) 政務の公共事務に従事するもの
- (ハ) 自由業 (宗教、法律、醫學、教育、文學に従事するもの)

丁 雜業

業

- (イ) 婢僕業
- (ロ) 一定の名なき普通の業務
- (ハ) 不生産的の業務

氏の分類は敢て不可なるにあらずと雖も實際上に於ける職業統計等に於ては斯の如き分類をなせるもの殆んど皆無なるを如何せん。余は實際上の便宜に基き現時各國の職業統計等に現はれたる分類法に基き職業を農業、商業、工業、公務及び自由業並に家婢の五種に分類し、漁業及び獵業は之

れを農業の中に包含し、運輸業は之れを商業の中に包含せしめんと欲す。素より此分類は現時に於て營まれつゝある職業の凡てを網羅せるものにあらずと雖も余の目的たる婦人職業を論ずるに於ては殆んど脱漏なかる可しと信ず。由て今左に之れ等五種の職業の意義を簡単に述ぶる所ある可し。

(イ) 農業、……古來農業の意義に關する學說三種あり。第一は食物を生産するを以て直ちに農業なりと云ふものは是れなり。素より農業は最も多くの場合に於て食物を生産するものなりと雖も近世工業の隆盛なる時代に至りては夥しき工業的原料品を生産するが故に單に食物のみを生産するを以て農業となすは少しく狭きに失す。第二は凡ての原始生産 (Primary-production or Transmutation) を以て農業なりとなすものは是れなり。然れども物其物の性質を變ずる原始生産の中には鑛業及び水産業を包含す。水産業を以て農業の一種となすは大なる誤りなるが如しと雖も鑛業を以て農

業中に包ましむるに至りては廣漠に失するのみならず全く用語の意義に反するものなり。故に原始生産を以て直ちに農業となす説も到底余輩の首肯する能はざる所たり。余はアルブレヒト、ソラン、テアー氏の説に従ひ人類に必要な動植物を生産すること。換言すれば價值ある動植物を生産するを以て農業なりと云はんと欲す。此説に従へば牧畜も亦た農業たるを失はざるなり。吾國の佐藤真淵氏は地上に普くある植物中人類に利益あるものを選びて生産するを以て農業なりと云へり。即ち氏の意見によれば牧畜業を除外せるなり又以て東西其國風を異にするの情を推知するに足る可し。

(ロ) 商業 ……古の經濟學者は商業を以て貨物の交換ありとなせり。例へばメロン氏の如き是れなり。氏は曰く商業とは剩餘物を必要なるものに交換するの謂なりと。アダム、スミス氏も亦た此見解に従へるものゝ如し。然るに近世に至り學者多く商業なるものを狭く解して營利の爲め

に貨物を交換し又は買ひ入れ之れに加工せしめて再び販賣する業務なりと觀念せり。彼のセー氏は商業を農業工業に對し購買物を加工せしめて (Modification) 再び販賣するを目的とする凡ての勞力を包括すと云へり。又た、シェツプレー氏は曰く商業は生産要素及び多少精製せられたる物の賣買を營業とするものなりと。而して其生産要素なるものの中には流動資本の利用をも包含せしめ従て銀行をも商業の中に加へんとせり。彼の、ロツセル氏、レキジス氏及びマテーヤ氏等も亦た此見解に従へるものゝ如し。以上諸氏の説を綜合して考ふるに商業なるものは要するに貨物を交換又は買入れて之れを他に轉賣して利潤を得ることを目的とする營業行爲なること明らかなり。今商業なるものを一層明瞭ならしめんが爲め、左に少しく之れを分解説明せん。

第一、商業なるものは貨物を一方より得て他方に移轉するものなるが故に他方より得ることなくして貨物を販賣するものは商業にあらざるな

り、例へば農業を、漁業者の如き原始生産者が其自己の生産したる貨物を販賣するも決して之れを商業と云ふこと能はざるなり。

第二、商業は貨物の轉賣を目的とするものなるが故に自己の消費の爲めに購入し又は交換するものは商業にあらざるなり。例へば昔時の物々交換の如きは最も多くは商業にあらざりしなり。

第三、商業は貨物を購入し轉賣するものなれども其貨物に加工するものにあらず。故に此點は貨物に加工し又は變形をなす所の工業と異なる主要なる所なりとす。唯た荷造りをなし又は貨物の分量を分割又は併合するが如きは敢て加工と云ふこと能はざるが故に商業なる觀念に舐觸することなし。

要之商業なる觀念は之れを農業なる觀察と區別すること容易なりと雖も工業と區別すること頗る困難なり。唯夫れ前述せる所のものは其大体を示せるものに過ぎざるなり。

(ハ)工業 ……凡そ經濟的活動或は經濟的行爲は新たに價值を有する貨物を作り出すか又は從來存在せし貨物の價值を増大する行爲に外ならざるなり。而して工業も亦た一つの經濟的行爲にして即ち變形又は變質の生産行爲なり。詳言すれば工業とは或は天然物或は原料品に物理的又は化學的加工を施こして其形態品質を變更して新たに價值を作り又は其増進を計るものなり。此點よりすれば彼の機械工業或は工場的工業は素より一般手工業も亦た工業たるを失はざるなり。或る學者は工業を定義して工業とは分業の微細なる點迄行はるゝ所のものを云ふと、素より工業は一般に分業の度他業よりも大なりと雖ども是れ單に程度の問題なるが故に此點を以て工業の本質を明らかにするものと云ふことを得ざるなり。又た或る者は機械工業或は工場的工業にあらざれば工業にあらざるが如く考ふるも是れ亦た正當なる見解にあらざるなり。蓋し小工業及び手工業の如きも之れを總括すれば決して輕視す可きものにあらざれば

なり。

要之工業は貨物の變形變質を目的とする行爲にして是れ其農業と異なる主要の點なりとす。

(二)公務及び自由業、……公務業とは國家又は公共団体の公共事務に參與するものを云ふ、彼の官廳の吏員、教員等是れなり、……自由業とは又た之れを専門的業務とも云ひ、農工商以外に多少専門的技能を要し且つ孤立的に營まるゝ所の業務を云ふ、彼の音樂師、寫真師、産婆、俳優等其重なるものなり。

(ホ)下婢、……下婢なるものゝ意義は世人の熟知するものなるが故に敢て之を解釋するの用なしと雖も強て之れを云へば他家に於ける家事的勞働に従事するものを云ふなり。

之れを要するに上述せる五種の職業分類中最後の分類は一般に世人の多く用ゆる所なるが故に余が以下論ずる所も主として此分類を標準とな

す可し。唯各國に於ける職業分類は多少其の名稱の異なるものありと雖も多くは大同小異に過ぎざるなり。

第三章 歐米諸國に於ける婦人職業

第一節 緒論

歐米諸國に於ける婦人職業の歴史を案ずるに婦人の職業は大古野蠻時代と近世に於て顯著にして中世紀に於ては殆んど之れを論ずべきものなきなり。乞ふ左に之れを詳述する所あらしめよ。

太古昧の世に於ける婦人職業の状態を研究すること素より容易なる業にあらずと雖も現時世界の各地方に於ける各種の野蠻民族の生活状態を觀察するときは其大略を知る敢て難きにあらざるなり。蓋し現時に於ける野蠻民族の状態を以て太古昧の時代を推知するは一般學者の常に爲す所のものなればなり。故に余輩も亦た現時に於ける野蠻民族の生活

状態を以て太古曖昧の世に於けるものとして觀察せんと欲す。假令直ちに太古曖昧の世に於ける状態となすことを得ずとも少くも幼稚なる職業状態として觀察し得るが故に現時の未開若しくは野蠻民族の状态を以て太古曖昧の世に於ける職業状態に代へんと欲す。

オーストラリア人、クルナイなる者曰く原始時代に於ける男子の職務は獵漁争闘及び閑遊にして之れ以外の諸種の職務は婦女子之れに任ずと是れ殆んど人種と風土氣候の如何に拘らず一般に原則として原始時代の人間に行はれたる所の男女の勞働分配の大要たりしかり。思ふに危險にして大に筋骨の努力を要し且つ其勞働に間斷あるものは主として男子に屬し、育兒併に比較的強大なる勞働を要せず且つ持續的に行はるゝ所の各種の産業は主として婦女子の掌る所たりしが如し。今左に之れを詳論する所ある可し。

エブラード、イム、サーン氏のギアナ國に於けるインヂアン族につき研究

したる所に由れば男子の職務は狩獵及びカツサツア樹(Cassia)の植付けらるゝ前に雜木を伐倒するにあり。而して此雜木が伐倒され除去されたる後は茲に婦女子はカツサツア樹を植へ付け其培養收穫等の活動は悉皆彼れ等によりてなさるゝのみならず其他農業は凡て婦女子の掌る所なり。此種族に於ては婦女子と雖も体力に於て殆んど男子に劣るなく、時に男子が悠々閑々午睡に耽りつゝあるに反し彼れ等は終日營々として農業に従事しつゝあり。然りと雖も男子の婦女子に對する虐待壓迫等の現象は決して之れを認むること能はざるなり。陶器(素より頗る不完全なれども)製造も全く婦女子の手にあり。不完全なる機械の業は男女共に之れに従事すと云ふ。……亦た東方中央亞非利加に於ても農業上に於ける耕作、播種、收穫等凡て婦女子の掌る所たるのみならず、家屋の建築、食物の調理、洗濯其他一般種族の物質的利益に關する事項は殆んど全く婦女子の專任する所なり。男子は家畜の馴養、狩獵及び戰闘に従事するのみにして苟も關あれ

ば衆男相集りて喜戯談笑するあるのみ、唯だ裁縫事務に男子の專任するは奇なる現象なりと。……又たサー、エイチ、エイチ、デヨンストン氏の言ふ所によれば、コンゴ州に於けるアントーレビス族中の或る部落に於ては婦女子は勞働者として并に荷物運搬者として非常なる勤勞に従事しつゝあるのみならず時としては男子よりも強健にして且つ發達し容貌の如きも眞に美麗なるものありと云ふ。……又たパーク氏の言によれば同じくコンゴ州に於けるアルウイミーマンユエマ族に於ても婦人の容貌は甚だ美なり然れども殆んど男子と等しく能く重荷を運送すと云ふ。……又た北亞米利加州に於ける或るインデアンの酋長、ヘーアニー氏は言つて曰く婦女子は先天的に勞働者たる可く造られたるものなり。彼れ等の或る者は荷物の運送に於ても又た牽引に於ても男子の二人力を有すと……

以上述ぶるが如く太古矇昧の世に於ては男女の体力敢て大差なかりし

が如く然も其勞働的分業は自ら其間に存せしことは前述べたる所により推測するあとを得。即ち一般に軍事的活動は男子に屬し産業的活動は婦女子によりて營まれたりしなり。換言すれば婦女子の特有たる道具は武器にあらずして、エスキモ人種の所謂ツル(Tul)婦人のナイフの意(即ち、ナイフなるなり。このツルなるものは原始時代に於て婦人が一般に各種の仕事に使用したるものにして現今歐羅巴諸國婦人の厨房に於ける肉刀(Chopping Knife)は是れその遺物として殘存せるものなりと云ふ。例へば男子は猛烈なる狩獵により其獲たる所のものを婦女子の許に持ち來たすに於て其職務を終り、其獲物の運搬、調理及び之れを入る可き器具の製造は勿論其獲物の皮及び各種排泄物の利用並に衣服の調製等に關連せる仕事は悉皆婦女子の職責たりしなり。又た各種動物の馴致も多くは婦女子之れが責に任せしものゝ如し。茲に注意す可きは太古矇昧の世にありては農業は主として婦女子によりて經營せられ時に原始時代に於ては唯だ耕

地開拓の場合に於ける比較的困難なる勞働のみ男子の勞働を藉れりと云ふ。後世進歩せる社會に於ても婦人の農業界に於ける勞働は實に重要なもののみならず現時歐洲に於ける文明諸國に於ても往々にして婦女子の農業に従事するもの頗る多き國あり。例へば伊多利の如きは九歳以上の婦人一千百萬中農業に従事する者實に三百萬人に餘ると云ふ。是れ即ち原始時代の一遺物として存在するものにあらずして何ぞや。又た陶器製造も前に述べたるが如く一般に婦女子之れに專屬せしものゝ如し。現に歐洲諸國に於ても往々之れを見る。彼のジュットランドに於ては幼女は陶器製造業者たる可く教育さるゝと云ふ。又た興奮性を有する飲料物も其始めは婦女子によりて製造せられたりしと云ふ。

以上述ぶるが如く太古未開の世にありては婦人は實に産業上重要な地位を占め従つて社會上の地位も甚だ高く人種學上太古の人種に關する智識幼稚なる時代に於ては世人往々野蠻時代の婦女子は虚弱にして男子

よりも甚だしく輕視せられ殆んど奴隸の如く逆待せられたりとのことを云々するのみならず現時に於ても人類學者中往々にして此言をなすものあるなり。然りと雖も精密に原始時代に於ける事實を考究するときには直ちに其誤謬を發見し得べし。素より一般に婦女子は多少男子に服從的傾向ありしは争ふ可らざる事實なれども、他方に於て婦女子が生産上并に外交上に於て有せし勢力は大に彼れ等の權勢を大ならしめ従て其社會上の地位を可なりに保たしめたり。彼の人類學者として有名なるラツホック氏及びレントルノー氏等は現時の如き開化せる婦人の状態を見て以て直ちに野蠻時代に於ても女子は大に男子より壓迫を受けたるが如く論ずれども、余輩は未だ以て之に首肯する能はざるなり。フイリン氏及びホーツイット氏等が直接、オーストラリア人等につきて研究せる所を見るに一般に平和の時に於ては婦女子は最も勤勉なる勞働者にして従て彼れ等の社會に於ける最も有用なる要素たるのみならず戰時に於ても彼れ等は常に彼

れ等自身を防禦するに足る完全なる活動をなし得たり。即ち單に男子の厄介物たらざるのみならず必要の場合には男子と同じく戦闘に従事して遜色なきのみか時としては反つて猛烈に健闘するものありと云ふ。又た三十二年間親しくオーストラリア人中にありて蠻族を研究したる、バックレー氏も殆んど是れと同様なる報告をなせり。……マールソン氏が曰く、素より男子は凡べての生物中最も多く天恵を受けたる者なりと雖ども若し自然上男子よりも多少不健全に造られたる婦女子が之れに加ふるに男子より甚はだしき逆待を受けたりしならば今日の人道は存続せざりしなる可しと。……亞米利加に於ける人類學者として有名なるホーレンヨ、ヘール氏曰く野蠻種族間にありて婦女子が苛待せらるゝと云ひ或は奴隸の如く虐遇せられしと云ふが如きは往々にして學者の口にする所なりと雖ども是れ狹隘なる事實を前提として一般を推測せる僻論なり。更に廣く各種の事實を研究すれば斯くの如き虐待は唯だ單に一少部

分若しくは或る特別なる事情の下に實現せられたるに過ぎざるを知る可しと。又たキユノー氏は「分業及び婦人の權利」(The Division of Labour and The Rights of Women)なる書を著はして曰く「遊牧狩獵の兩段階に於ては婦人は土地の耕作と家具の製作とに従事して極めて重要な任務を盡せり。彼の婦女子の權力の大なる女長制度は此婦人の任務の重大ありしより來れりと。

以上述ぶるが如く野蠻昧の時代に於ては婦女子は敢て社會上の地位男子に優ることなかりしと雖も現今一部人士が考ふるが如く苛待冷遇を受けたるものにあらざるなり。

太古野蠻時代に於ける婦人の産業上に於ける地位大略上述せるが如し而して時勢漸く變遷して社會的秩序鞏固となるに及び此男女の勞働分配も亦た從て其變化を受くるに至れり。思ふに太古野蠻時代にありては一方に於て部族對部族の争鬪頻繁なりしと共に他方に於て猛獸毒蛇の危害

甚だしかりしが爲め男子は其勢力の大部分を之れが爲に消耗して殆んど他を顧るの餘裕なかりしなり。

然るに社會の漸く進歩すると共に其種族の秩序鞏固とあり生活の資料を得るの方法一層正確なるに及び男子は其の彼れ等の慣用し愛着し來りし武器を納めて之れに代ゆるに婦女子の使用せし産業的器具を以てし從來多く婦女子によりて經營せられたる各種の生産事業に關與するに至れり。即ち、マーンソンの言を藉りて云はゞ原始時代の婦人は男子に柔皮製造の方法を教へて以つて從來彼れ等の使用せしツールを之れに與へたるなり。更に社會の平和の比較的能く擔保せらるゝに及び男子の産業界に進入するの度目を追ふて大を加ふるに至り茲に男女勞働分配は漸く大なる變化を受くるに至れり。而して從來婦女子は一般に複雑なる家事及び生産事業の主動者たりしと雖も惜哉彼れ等は其各種の活動を分業的或は専門的になすの能力なく従て之れが進歩開發を計ること能はざりしな

り。然るに男子が争鬪並に狩獵の煩勞より多少自由なるを得るに及び漸々其勢力を直接生産界に傾注して以て婦女子の勞働界に進入し各種の勞働を分業的になし職業を専門的となし以て大に之れを發達せしめたりしなり。然るに何が故に社會の進歩特に職業發達に重大なる要素たる分業的或は専門的性質が婦女子の特性にあらずして男子の特性なりしか且つ若し男子の特性とすれば是れ心身の自然的構造の然らしめたるか將た他に社會的原因の存在するものありしか。素より是れ等のことを闡究するは容易なる業にあらず。従て明確に之れに答ふことは到底不可能の事なりと雖も敢て余が信する所を云はしむれば恐らく是れ心身の自然的要件と社會的要件との二つの原因の然らしむるものなりと云はむと欲す。即ち一方に於て男女の間に智能の優劣あると共に他方に於て婦女子の母たるの性質に關連せる各種の活動の無差別は不知の裡に婦女子の無差別的傾向を増長せしむるに反して男子の専屬せし競争及び狩獵は其本來の

性質上専門的或は分業的活動の利益ある觀念を教ゆるものなりしなり。斯の如く産業上に於ける男子の自然的並に社會的要素に於ける優越は次第に婦女子の産業界に於ける勢力を侵奪せし爲め婦女子の活動は次第に家庭内に壓迫せられ産業上に於ける重要な地位全く彼れ等の手を脱して男子の手に移轉するに至れり。於是か婦女子が從來社會上に於て重要視せられたる所以の主たる根底滅却して漸く男子より輕視せらるゝに至れり。加之一方に於て歐洲中古時代に於ける頻々たる戰鬪は愈々男子の權勢を大ならしめしと共に他方に於て一般學者の女性蔑視の口吻は特に甚だしく婦女子の境遇をして憐むべき地位に陥らしめたり。今試に其著名なるものを擧げん。

既にギリシヤの古哲アリストテレス氏は曰く女子は全く理性を缺欠する奴隸と大差なきものなり。自然は男子を生むを以て本年の目的とし、不充分なる營養等の爲め不完全に生じたるもの即ち是れ女性なりと。ロ

「マのアウグスタヌスも亦た女子は教育するものと能はず、證人たること能はず、判斷すること能はず、從て命令すること能はずと云へり。又た紀元五百八十五年、マコンに於て僧正會議の開催されしとき女子は精神を有するや否や女子は人類なるや否やの問題さへ討議せられしと云ふ。露西亞の諺に「假令女子がガラスより生ずるとするも其は不透明なるを免れず」(Wenn die Weiber auch von Glas wären, sie würden dennoch undurchsichtig sein)と。思ふに婦女子は智慮淺薄にして到底社會を裨益するが如きことなかる可しとこのことを云ひ現はしたるに外ならざる可し。之れに類して「婦女子は髮長くして思慮短し」(Lange Haare, Kurzer Verstand)との諺もありと。シエクスピアのハムレットに曰く「脆性よ汝の名は即ち女子なり」(frailty Thy Name is woman) と即ち女性は脆弱にして恒心なしとこのことを表示したるなる可し。特にルソーの如きは「婦女子は特に男子を樂ましむるが爲めに造られたるものなり」(La femme est faite spécialement pour l'homme)

とさへ明言せり。素より中世に於ける武士道的氣質により或はゲーラー及びシラー等の學者により婦人は多少尊崇の念を拂はれたりしと雖も上古の末より中世並に近世の始めに至る迄一般に婦人の輕視せられ酷待せられしは明らかなる事實あり。特に甚だしきは其境遇殆んど動物と選ぶ所なきものさへありしと云ふ。

然るに拾八世紀に至り全歐洲特に英國佛國等に於て各種事業に對する研究心勃興し爲めに婦人の本性並に其社會上に於ける地位等に關する事項も亦た一般社會の人士によりて研究さるるに至れり。且つ此時に當り經濟界の大變動たる産業革命 (Industrial Revolution) の煥發するありて婦人の職業従事の機會を開發せしむるに及び婦人問題は漸く社會問題として研究さるるに至れり。然りと雖ども第拾八世紀の後半に至る迄婦人の教育の程度甚はだ低く特に有夫婦人の法律上の地位の如きは殆んど未成年者と選ぶ所なかりしなり。第拾八世紀の末彼の有名なる佛蘭西革命の

起るや人々自由よ、平等よ、四海兄弟よ (Liberty, Equality, Fraternity) と人權の尊重すべきことを大聲疾呼せしと雖も然も是れ男子に對してのみ云へるものにして婦女子に至りては全く度外視せられしなり。視よ、ワリンベヅゴーシェー (Olympe de Gouges) 嬢の婦人權を唱道するや當時多くの人士は之れを以て家族的生活の團樂を阻害し婦人の天職に背戾するものなりとして論難攻撃の聲頗る喧々たりしものありしにあらずや。斯の如く嬢の熱誠も一時殆んど水泡に歸せしと雖も後幾何ならずして婦人は遂に此大革命の結果經濟的方面に於て一大成效を博せり。其成效とは何ぞや。即ち一千七百九拾一年に發布せられたる人權宣告にして其法律により婦人は始めて勞働並に營業の範圍内に於て男子と同様の權利を得たる事是れあり佛國に於ける此法律の發布は忽ち燎原の勢を以て全歐洲に進み各國共に之れが影響を受けざるなし。於是か嘗て婦人の加入するを禁せられし同業組合も第拾八世紀の末年に於ては婦人の加入を許し且つ從來男子によ

りて營まれたる各種の職業にも漸々婦人の進入するありて遂に婦人の同業組合をさへ見るに至れり。如斯婦人は男子と同様なる職業的權力を得て各種の職業に於て婦人の存在を認むるに至れりと雖も然も其始めに於ては農業を除き多く家族經濟(Haus Wirtschaft)に従事せしに過ぎずして其國民經濟上に著しき變化を及ぼすに至りしは實に拾九世紀特に其後半にあるなり。余輩は左に節を更めて晩近に於ける歐米諸國の婦人職業の狀態を述べんと欲す。

第二節 晩近に於ける歐米諸國の婦人職業

前節に於て述べたるが如く第十八世紀の末より婦人の従業は次第に増加し特に晩近に於て其顯著なるを見る。然らば晩近各國に於て如何に多くの婦人が職業に従事しつゝあるか乞ふ試に左表を見よ。

國名 調査の年代 總人口 男子有業者 女子有業者 計

| | | | | | |
|-----|-------|------|------|-----|------|
| 獨逸 | 一八九五* | 五二三〇 | 一五五一 | 六五七 | 二二〇八 |
| 埃地利 | 一八九〇 | 二三九〇 | 七三九 | 五七七 | 一三二六 |
| 匈牙利 | 一八九〇 | 一七四六 | 五四五 | 二二九 | 七六四 |
| 伊多利 | 一八八一 | 二八四六 | 九四五 | 五七〇 | 一五一五 |
| 佛蘭西 | 一八九一 | 三八一三 | 一一一四 | 五一九 | 一六三三 |
| 英國 | 一八九一 | 三七七三 | 一一六一 | 五二一 | 一六八二 |
| 米國 | 一八九〇 | 六二六二 | 一八二一 | 三九二 | 二二七四 |
| 瑞西 | 一八八八 | 二九二 | 〇八一 | 〇四四 | 一三一 |
| 和蘭 | 一八八九 | 四五二 | 一三〇 | 〇三五 | 一六五 |
| 白耳義 | 一八九〇 | 六〇七 | 一八一 | 〇八〇 | 二六一 |

右表を一層簡明ならしむるが爲め人口並に有業者等に對する百分比例を見るに次の如き狀態を呈せり。

| 國名 | 調査の年代 | 婦人百人に對する有業婦人數 | 男子百人に對する男子有業者數 | 人口百人に對する有業者數 |
|-----|-------|---------------|----------------|--------------|
| 獨逸 | 一八九五* | 一五・五 | 六五・七 | 二二・〇八 |
| 埃地利 | 一八九〇 | 七・三九 | 五・七七 | 一三・二六 |
| 匈牙利 | 一八九〇 | 二・七四六 | 二・二九 | 七・六四 |
| 伊多利 | 一八八一 | 二・八四六 | 九・四五 | 五・七〇 |
| 佛蘭西 | 一八九一 | 三・八一三 | 一一・一四 | 五・一九 |
| 英國 | 一八九一 | 三・七七三 | 一一・六一 | 五・二一 |
| 米國 | 一八九〇 | 六・二六二 | 一八・二一 | 三・九二 |
| 瑞西 | 一八八八 | 二・九二 | 〇・八一 | 〇・四四 |
| 和蘭 | 一八八九 | 四・五二 | 一・三〇 | 〇・三五 |
| 白耳義 | 一八九〇 | 六・〇七 | 一・八一 | 〇・八〇 |

| | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 獨逸 | 一八九五 | 二五〇 | 六一一 | 四二七 |
| 奧地利 | 一九九〇 | 四七三 | 六三二 | 五五一 |
| 匈牙利 | 一八九〇 | 二四四 | 六二八 | 四三七 |
| 伊太利 | 一八八一 | 四〇二 | 六六三 | 五三二 |
| 佛蘭西 | 一八九一 | 二七〇 | 五八八 | 四二八 |
| 英國 | 一八九〇 | 二六八 | 六三四 | 四四五 |
| 米國 | 一八九〇 | 一二八 | 五八七 | 三五八 |
| 瑞西 | 一八八八 | 二九〇 | 六一四 | 四四八 |
| 和蘭 | 一八八九 | 一五五 | 五八三 | 三六六 |
| 丁抹 | 一八九〇 | 二一〇 | 五七五 | 四〇〇 |

(前二表は各國に於ける調査の方法と其調査の年代とを異にするが故に素より正確なるものと云ふを得ずと雖も又以て其大畧を知るに足るものあり)

近來婦人職業擴張の聲の一般に高きよりして世人は動もすれば婦人有業者の多寡は以て各國國民經濟の隆否如何を表證するものゝ如く考ふるに雖も上に表示せる所の統計に據るときは事實は全く之れと相反する傾向を有するに驚かん。即ち和蘭及び北米合衆國等の如く普通最も經濟の程度發達せりと稱せらるゝ國に於て却て有業婦人の數少く之れに反して伊太利、奧地利等の如く通常經濟の程度幼稚なりと稱せらるゝ國に於て却て婦人の有業者多きを見るあり。然らば即ち斯の如き現象を呈するもの抑も何の故ぞや彼のラウフペルヒ氏は一般有業者の多寡を根據として間接的に此事を説明せり。其要に曰く

素より各國を通じて一般的判斷を下すは容易の業にあらずと雖も若し他の事情にして同一なりとすれば一般に有業者の多きは是れ經濟の程度幼稚なる表證なり。何とならば一國に於ける有業者全体の多きは是れ主として婦人従業者(幼年者も多少關係すれども)の多きが爲めにして

而して、是れ等の有業婦人は、發達せる經濟の程度に於ては、職業に従事せずして、可なれば、なり。

と、素より婦人有業者の多寡は各國に於ける社會上並に經濟組織上等各種の事情の纏綿するものあるが故に容易に其理由を解決すること能はずと雖もラウフベルヒ氏の言恐らく其要を得たるものなる可し。由て今左に氏の言を補説する所ある可し。

上表掲ぐる所によりて之れを観るに男子有業者の男子總數に對する割合に至りては各國の間大差なしと雖も婦人有業者の總婦人に對する割合に至りては各國の間大なる差異あるなり。即ち男子にありては有業者の割合に於て最多數を有する伊太利の六六三と最少國たる丁抹の五七五との間に於ては其差百分の八八に過ぎざれども婦人有業者に於ては最多國たる埃地利の四七三と最少國たる合衆國の一二八との間に於ては實に百分の三四五の大差あるなり。即ち合衆國は有業婦人の割合に於て埃地利

の二割七分に相當するに過ぎず。如斯有業婦人の割合各國の間に於て著しき相違あるが故に之れが各國に於ける一般有業者の多寡に及ぼす關係は頗る甚だし。されは各國の一般有業者の多寡は男子有業者の多寡によるよりも寧ろ婦人有業者の多寡に由りて定まる可きは統計上必然の結果なり。即ち婦人有業者の比較的多き埃地利及び伊太利は一般有業者に於ても比較的多數を占むるに反し婦人有業者の比較的少き合衆國及び和蘭は一般有業者に於ても亦た比較的少數の地位に立つなり。由是觀之ラ氏の所謂有業者全体の多寡は主として婦人有業者の多寡に基くものなりと云ふ判斷の正當なるを知るに足る可し。然らば次にラ氏の所謂經濟の發達せる國にありては婦人は職業に従事せずして可なるを得る所以のものは何ぞや。想ふに最少の勞費を以て最大の効果を收めんとするは是れ經濟の目的にして近世一般社會に於ける經濟の發達は全く此目的に向つての進行を指すに外ならざるなり。而して婦人特に有業婦人の最大の天職

は原則としては妻たり母たるにあるなり。彼の婦人が外職業に従事するは是れ主として家族的収入不足の爲已むを得ざるに出づるものなり。換言すれば他の事情にして同一なりとすれば一家の家長たる者の經濟程度低きが爲めなり。而して如斯一國に於ける個人經濟の程度低きは是れ則ち國民經濟幼稚なる表證にしてラ氏が經濟の高き國に於ては一般に婦人は職業に就かざることを得と云ふ所以なり。

歐米諸國に於ける一般的婦人職業狀態は大略上述せるが如し。余は更に是れより獨逸、北米合衆國並に英國に於ける婦人職業の狀態を別々に論述する所ある可し。蓋し是れ等諸國に於ける婦人職業狀態は婦人職業を論ずるに當りて其之れに裨益すること大なればなり。

且つ婦人の有業者の夥しき伊太利並に埃地利が十九世紀の末に於て尙ほ未だ農業國たりしことは大に吾人の注目す可き現象なり。夫れ生産的方面より國民經濟發達の順序をと察するに、游牧漁獵時代を経て農業時代

に移り商工業時代は現時に於て最も發達せる經濟の時代なり。(農業が游牧漁獵と共に行はれたりとの説亦た多けれども商工業が農業より後に開けたりとの説は争なき所なり)蓋し近世經濟發達の要件たる分業、資本並に機械の應用は商工業に大にして農業に小あればなり。故に國として農業を主とするか若しくは農業に従事する者の數夥しきは是れ其國民經濟の尙ほ未だ幼稚なるを表示するものにして商工業を主とし若しくは之れに従事する者の比較的多數なるは是れ其國民經濟の發達せることを證明するものなり。今埃伊兩國につきて見るに其一般有業者の多きは是れ有業婦人の夥しきが爲めにして而して此有業婦人の夥しきは是れ主として農業的有業婦人多きが爲めなり。伊太利國の如きは有業婦人總數五百七十萬人中農業に従事する者實に三百萬人に餘ると云ふ。即ち知る埃伊兩國に於ける有業婦人の夥しきは是れ主として農業に従事する婦人夥しきが爲めにして而して農業に従事する婦人の夥しきは是れ其國の尙ほ未だ農

業國として經濟程度の幼稚なるを表示するものなりと。

更に一步を進めて之れを考ふるに、前節緒論に於て述べたるが如く太古並に現時に於ける野蠻民族間にありては其産業の大部分は婦女子の手によりて營まれしと雖も社會の秩序鞏固となるに及び男子は各種の産業界に進入して以て其進歩發達を計れり。於是か婦女子の産業界に於ける勢力は次第に減少し從來産業界に於ける弱者を以て任じたる婦女子も日を追ふて其の量を侵され現時に於ける進歩せる社會に於ては其産業の重要部分は全く男子の掌中に歸するに至れり。故に此男女職業界に於ける勢力の消長盛衰より推論するも一般に婦人有業者の夥しきは其國經濟の幼稚なるの表證と見る可と敢て難きにあらざるなり。(素より近世に於ける商工業發達に伴ふ婦人有業者の増加は又た別種の關係を有するものにして此事に關しては後に詳論す可し)

以上は唯だ單に一般的に評論したるに過ぎざるものなること前既に之

を述べたる所なり。素より例外の存すること並に其個々の國につきて觀察するときには尙ほ種々の關係の存在すること敢て喋々を要せざるなり。且つ過去特に十九世紀の状態につきて觀察したるものなるが故に之れを以て直ちに將來を推すこと能はざるが故に將來のことにつきては後章に之れを詳論する所ある可し。

第五章 獨逸に於ける婦人職業狀態

晩近に於ける科學の先驅者としての獨逸は諸種の統計事業に於ても亦歐米列國に冠たり。今同國に於て一千八百九十五年に施行されたる職業調査により獨逸の國勢上婦人の職業が如何なる状態に於て存在するかを見るに一千八百九十五年六月の調査によれば同國に於る婦人の總數は二千六百三十六萬一千二百二十三人にして此中本業に於て有業者たる婦人は六百五十七萬八千三百五十人にして同國に於ける婦人總數の百分の二十四・九六即ち四分の一弱に相當す。而して男子にありては其有業者男子總

数の五分の三を占む。若し職業的無能力者と見るべき十四歳以下の幼年者を控除するときは女子にありては有業者は、婦人總数の百分の三十六、二一にして男子にありては有業者、男子總数の百分の九十、七〇なるなり。由是觀之、婦人從業者は男子從業者に及ばざること甚だ遠きなり。然りと雖も前述、一千八百九十五年の調査と一千八百八十二年の調査とを比較するときは此間に婦人有業者の著しく増加せるを見る。

一千八百九十五年

一千八百八十二年に對する増加

絶 体 數

絶 体 數

有業婦人百人に對する増加率

六、五七八、三五〇

一、〇三六、八三三

一八、七一、

而して此間に於て男子は一千三百三十七萬人より一千五百五十一萬人即ち絶体數に於て二百十三萬人、百分比例に於て一五、九の増加なり。即ち知る、獨逸に於ける有業婦人の増加の割合は男子有業者増加の割合よりも又一般人口の増加の割合よりも迅速なるを、一千八百九十五年と一千八百

八十二年との間に獨逸の人口は四千五百二十萬人より五千百三十萬人即ち一四、四八パーセントの増加をなせり。従て一千八百九十五年と一千八百八十二年との間に於て生じたる職業上の女性人口構成は次の如く變化せり。

| | | |
|--------------|-------|-------|
| 有業者(婦人百人につき) | 一八九五年 | 一八八二年 |
| 下 婢(同) | 一九、九七 | 一八、四六 |
| 家 族(同) | 四、九九 | 五、五六 |
| 無業獨立者(同) | 七〇、八一 | 七二、九四 |
| | 四、二三 | 三、〇四 |

即ち婦人の有業者は百分の一、五一の増加をなせり。此間に男子も亦増加したれども其割合は頗る僅少にして〇、六五に過ぎざるなり。従て職業に關する人口上男女構成の割合次の如く變動せり。

一八九五年

一八八二年

| | | |
|------------|-------|-------|
| 有業男女百人につき女 | 二五、三五 | 二四、一六 |
| 僕 婢百人につき婢 | 九八、一一 | 九六、七九 |
| 合計 百人につき女 | 二九、七五 | 二九、二三 |

以上示す所によりて之れを觀れば女子有業者は到底男子有業者に及ばざることを遠きも其有業者増加の割合の男子よりも大なるは明らかなる事實なり 今や之れ等の事實を一層明瞭ならしむるため左に婦人有業者増加の状態を各業につきて示す所あらんとす。

| | | | |
|---------------|---------|------------|------------|
| 職 業 | 一八九五年 | 一八八二年に對する増 | 有業者百人につき婦人 |
| 農 業 | 二、七三、五四 | 四、五 | 二八、四五 |
| 工 業 | 一、五三、二八 | 三、三 | 五四、四三 |
| 商業及 輸運業 | 五九、六六 | 八、八 | 二一、四八 |
| 公務及 自山業 | 一、六、四六 | 二、九 | 六、三五 |
| 有業婦人 絶 体 數 | 一八八二年 | 有業者百人につき婦人 | 一八八二年 |
| 有業婦人 百分比例 | 一八八二年 | 有業者百人につき婦人 | 一八八二年 |
| 絶 体 數 | 一八八二年 | 有業者百人につき婦人 | 一八八二年 |
| 百分比例 | 一八八二年 | 有業者百人につき婦人 | 一八八二年 |

| | | | | | | |
|-----|--------|--------|--------|-------|------|------|
| 家 婢 | 一、四、八三 | 三、三 | 八、七三 | 二、四 | 六、二 | 六、六 |
| 合計 | 六、五、五〇 | 一〇〇、〇〇 | 一、〇、八三 | 一八、七二 | 二九、五 | 二九、三 |

即ち各業に於て婦人有業者は何れも多少の増加をなせり、特に商業及運輸業に於ては殆んど二倍となり、公務及自由業に於ては五割工業に於ては三割強の大増加をなせり、而して此れを實數につきて見るに商工二業に於ける増加は實に六十七萬五千四百四十人にして婦人有業者増加全体の六割五分強を占む、是れ吾人の大に注目せざる可らざる所にして即ち近年獨逸が漸く農國本を脱して商工國本に移り將に英國を壓倒せんとする形勢あるの表證として見るべきものなり、然らば此間に於ける男子の狀態は如何

| | | |
|-----|-------------|----------|
| 職 業 | 增加絶体數 | 全 百分比例 |
| 農 業 | (一) 一六二、〇四九 | (一) 二、八 |
| 工 業 | (十) 四九〇、六一三 | (十) 二八、三 |

| | | | | |
|--------|------|------------|-----|-------|
| 商業及運輸業 | (十) | 四八六、六九五、 | (十) | 三八、三 |
| 公務及自由業 | (十) | 一五四、二八五、 | (十) | 三三、二五 |
| 陸海軍 | (十) | 一七九、一五三、 | | 三九、六五 |
| 日儲 | (一) | 一五、一二〇、 | | 七、一 |
| 合計 | (十二) | 一、三三三、五七七、 | | 十五、九 |

上表によりて之れを見るに婦人の有業者増加の割合は單に其全体に於て男子有業者増加の割合より大なるのみならず各業各々皆男子よりも著大なり。加之男子にありては農業の有業者の數却て減少したるに拘らず婦人の農業の有業者は増加せり。是れ何の故ぞや、男女農業上に競争し男子敗北の結果なるか抑も又他に原因の存するものありて然るか。想ふに此現象は決して農業上に於ける男女職業的競争の結果にあらずして、獨逸晚近に於ける商工業の急激なる勃興に原因するものに外ならず。即ち男子は不利なる農業を去りて、有利なる商工業に趨馳し、而して婦人は、其空虚

となれる男子の後を補填せしに由るものならん。此事たる商工二業に於ける男子有業者の増加が如何に大なるかを見れば自ら明らかなる所なり。更に進んで増加したる婦人職業の種類と男子職業との關係を見るに一般に從來よりも婦人職業の範圍に屬するもの増加せり。例へば農業、飲食業、物品販賣業、被服業及織物業の類是れなり。又從來専ら男子に屬せし職業に婦人の侵入したるものあり。而して其増加の割合頗る大なるものあるも一般に男子従業者の數非常に夥しく且つ其増加の割合も亦た決して僅少にあらざる故婦人の増加は男女の比例を變動せしむるに足らず。蓋し是れ等の職業は多く發達の迅速なる職業にして男女共に増加すればなり。又多くの職業中には男女従業者の數次第に減少するものあり。然れども女子は男子よりも比較的執着力強きが故に男子の減退したる後も尙ほ女子は其原職に在在するもの寡からざるなり。如斯に従業者の減退せる職業は一千八百八十二年より九十五年迄の間に於て二十二種ありて、中婦

人有業者の減じたるものは十四種なりと云ふ。又或る職業中にありては從來専ら婦人の職業たりしものに男子の大に進入せしものあり。例へば被服業の如き其一種なり。即ち婦人の従業者の増率は僅かに百分の四十九に過ぎざるに男子の就業者の増加は實に百分の九十八に達せり。又婦人頭飾品業の如きも婦人の従業者は百分の二十八の増加に過ぎざるに男子にありては百分の五十に及べりと云ふ。

一千八百九十五年の職業統計には尙ほ副業の調査あれば今少しく之れにつき述ぶる所あらん。一般に男子副業の減少は是れ他方に於て女子の副業従業者の増加を現出せしむるものゝ如し。同國副業總件數の百分の三十五・二八即ち百七十四萬六千三百二十六件は婦女子の採りつゝある副業にして中百四十萬八千二百八十八件即ち百分の八十六・四は本業なき家族若しくは下婢の執りつゝある所なり。又本業を有する婦女子にして同時に副業を執る者の副業件數は二十六萬五千二百九十七件にして無業獨

立の婦女子の執る副業件數は七萬二千七百四十一件に過ぎず。而して今職業の大分類に従ひ一千八百八十二年に對する一千八百九十五年の婦人副業の増減を見るに左の如し。

| 大分類 | 絶 体 數 | 各大分類の副業數百に對する婦人副業の割合 | |
|--------|-----------|----------------------|-----------------|
| | | 一八九五年の婦人副業數 | 一八八二年に對す婦人副業の増加 |
| 農業 | 一三五二、五七〇、 | 三七〇五 | 四二八三〇八、 |
| 工業 | 一五三〇、五五、 | 二四七一 | 六二七一八、 |
| 商業及運輸業 | 二二一、〇八四、 | 三八、八〇 | 一四一、〇七四、 |
| 下婢 | 九三三九、 | 五五六五 | 二二二九、 |
| 公務 | 一一、二八八、 | 一一、八三 | (一)一〇八七、 |
| 總計 | 一七四六、三三六、 | 三五二八 | 六三二、二五〇、 |

上表によりて之れを觀るに女子は亦副業に於ても公務を除く外總ての

| 家事婢及定業なき日傭 | | 公務及自由業 | | 家内下婢 | | 有業婦人總計 | |
|------------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 準獨立者 | 準役員 | 準勞働者 | 計 | 獨立者 | 役員 | 下婢 | 其他勞働者 |
| 二、三、八、五 | 一、〇、三、六 | 五、五、六 | 一、七、八、八 | 一、三、三、九七 | 四、〇、四、 | 一、三、三、九七 | 二、八、九、三三 |
| 三、五 | 〇、三 | 〇、九 | 二、九 | 一、九、九七 | 〇、八二 | 一、九、九七 | 四、六、 |
| (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) |
| 五、〇、九 | 一、七、三 | 二、九、二六 | 六、三、六 | 三、五、四 | 二、九、八、〇 | 三、五、四 | 八、三、一、四 |
| (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) |
| 二、七、三 | 四、三、四 | 五、五、三 | 五、四 | 二、四、 | 一、三、三、三〇 | 二、四、 | 二、七、九 |
| (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) |
| 六、六、三、五 | 一〇、〇、〇 | 六、六、三、五 | 一〇、〇、〇 | 六、六、三、五 | 一〇、〇、〇 | 六、六、三、五 | 一〇、〇、〇 |
| (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) | (十) |

上表によりて之れを観るに婦人は一般に劣等なる地位に於て職業に従

事しつゝあるものにして而して其増加も亦た劣等なる地位に於て強大なるものなり。役員地位に於ける増加は二倍以上なるも其實數甚だ僅少なるが故に大勢上輕重をなすに足らざるなり。且つ獨立的婦人の名は獨立なるも其實は勞働者と地位の高低なきもの亦寡からすと云ふ。故に大体より見るときは婦人の職業は其地位甚だ低きものなりと云ふて可なるなり。而して斯の如き現象は單に獨逸に於て然るのみならず恐らく歐米各國皆然らざるはなかる可し。蓋し職業者地位の高低は主として其從業者の智能の高低に正比例するものにして而して婦人の智能は近時各國に於て著しく増進したりと雖も一般に云ふときは到底男子の智能に及ばざるや敢て喋々を要せざるなり。其男子に及ばざる智能を有する婦人が男子より高き或は之れと同等なる職業に従事し得ることは到底之れを推測すること能はざればなり。試に其一例を擧ぐれば婦人頭飾品業に於て男女共に一定の増加をなせるに男子の増加は重に高等の地位即ち獨立者及

役員の地位に於て現はれ婦人従業の増加は主として地位低き物品製造に於て現れたり。想ふに人物の組織的能力と指揮監督の技量とは比較的に高等なる才能を要するものにして従て智能の高き男子が高等の地位に於て最も増加せるは毫も怪むる足らざるなり。

最後に余輩は獨逸に於ける都鄙と婦人職業との關係を一言せんと欲す。有業婦人の數は各地方に對する配當の状態を觀るに有業者總數の百分の二十二、一七より三十七、三二の間にあり、而して其有業婦人の多寡は主として各地方に於ける職業構成の状態に由るものにして換言すれば婦人の採る可き職業の多少によりて増減あるものなり。即ち、農業地方特に小農の行はるゝ所にありては、婦女子の有業者最も多し。又一般に工業發達したる地も亦比較的婦人の従業者多し。今土地の人口的階級により有業婦人の状態を見るに左の如し

人口的階級

婦人百人につき有業者

有業者百人につき婦人

| | 一八九五年 | 一八八二年 | 一八九五年 | 一八八二年 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 大都會 | 一八、九三 | 一七、六五 | 二三、五六 | 二二、七二 |
| 中都會 | 一五、七三 | 一四、六四 | 一九、八五 | 一九、二八 |
| 小都會 | 一五、三三 | 一四、一六 | 一九、九四 | 一八、八八 |
| 地方都會 | 一七、五九 | 一五、八五 | 二三、二三 | 二一、七〇 |
| 地方 | 二二、九一 | 二〇、六二 | 二八、八〇 | 二六、六六 |
| 總計 | 一九、九七 | 一八、四六 | 二五、三五 | 二四、一六 |

(註本表は家内に於ける下婢を除きたる數なり)

右表によりて之れを見るに大休上婦人の有業者は中都會及び小都會に最も少く地方と大都會とに於て最も多し。即ち地方に有業者多きは是れ農業あるが爲めにして而して大都會に有業者多きは是れ工業盛んなるが爲めなり。更に職業の大分類に従ひ區別するときには有業者百人につき婦人有業者の比例次表の如し。

| 人口の階級 | 農業 | 工業 | 商業及運輸業 | 下婢 | 公務及自由業 |
|-------|-------------|------|--------|------|--------|
| 大都會 | 一八九五年 二二、二 | 二二、六 | 二二、六 | 五、五 | 一四、二四 |
| 大都會 | 一八八二年 一九、四 | 二五、三 | 二六、四 | 四、九 | 二二、四 |
| 中都會 | 一八九五年 二六、一六 | 一九、四 | 三三、六 | 五、六 | 八、三 |
| 中都會 | 一八八二年 二四、三 | 二〇、四 | 二七、三 | 四、四 | 八、九 |
| 小都會 | 一八九五年 二九、五 | 一七、七 | 二四、三 | 五、一八 | 九、三 |
| 小都會 | 一八八二年 二六、三 | 一八、四 | 二七、九 | 四、八 | 七、六 |
| 地方都會 | 一八九五年 三三、九 | 一七、六 | 二六、七 | 五、六 | 一五、〇 |
| 地方都會 | 一八八二年 二九、八 | 一六、三 | 一九、七 | 四、三 | 一三、九 |
| 地方 | 一八九五年 三三、三 | 二五、四 | 三〇、三 | 五、九 | 一七、五 |
| 地方 | 一八八二年 三三、九 | 二四、四 | 三三、五 | 四、四 | 一六、六 |

上表によりて見るときは下の如き断定をなすことを得。即ち、土地の人口多きに從ひ婦人の工業に從事するもの多きを加ふるも農業及び商業併

に交通業に從事するもの數は減少す。即ち、大体に於て有業婦人の數は人口の多寡に反比例をなすの現象を呈せり。此事實によりラツンペルヒ氏は曰く都會經濟の進歩は必ずしも常に婦人の職業を増加せしむるものと云ふことを得ず。之れを云ひ得るは唯だ工業に於て然るのみ。其他の職業にありては寧ろ反對の傾向を有すと。全氏は又一千八百八十二年と九十五年との間に於て工業に於て比較的地方の歩合増加し都會特に都會の歩合の減少し各階級間の差異の度減少せる事實を見て次の如き論断をなせり。曰く若し土地の人口多きを以て經濟進歩の一徴候と見得るならば經濟の低き時代に於ては工業の爲めに多くの婦人が男子と共に使役せらるゝと雖も經濟の程度發達するに從ひ工業に從事する婦人の數は假令絶体的に増加するも男子に對する割合に於ては減少の傾向を有すと。素より氏の断定は多少の獨断的の嫌ありと雖も尙ほ其間に相當の眞理を包含するものと云ふ可し。

第 貳 款 北米合衆國に於ける婦人の職業状態

合衆國に於ても一般に云へば男子の有業は有業の女子よりも遙かに多く有業の男兒は有業の女兒よりも多し。今一千八百九十年の調査に基き婦人有業者を見るに其數凡て三百九十一萬四千七百十一人にして之れを同年に於ける拾歳以上の婦人總數二千三百〇六萬〇九百人に比較するときは一割七分に相當するに過ぎず。即ち拾歳以上の婦人總數の六分の一にして又た男女有業者總數の六分の一たり。然るに男子にありては有業者總數一千八百八十二萬一千〇九十人にして拾歳以上の男子總數二千四百三十五萬二千六百五十九人に對し實に七割七分三厘に相當す。即ち知る婦人の有業者は遠く男子に及ばざるの眞なるを。今更に一步を進め之れ等婦人有業者を各業に分類し且つ男子有業者との關係を見るに下の如し。

職 業 男 子 女 子 合 計

| | | | |
|-----------|------------|------------|-------------|
| 農、漁、鑛業 | 八、三三、六九一、 | 六九、五〇九、 | 九〇三、二〇一、 |
| 公 務 及 | 三三、八六一、 | 三二、六六二、 | 九四、四四三、 |
| 自 山 業 | 二、六九、六〇〇、 | 一、六七、六六六、 | 四、三六〇、二六六、 |
| 家内の勤務及身勤務 | 三、〇七、〇〇〇、 | 三、六、三三三、 | 三、三三五、九六三、 |
| 商 業 及 | 四、〇四、二一九、 | 一、〇七、五五〇、 | 五、〇九、一六九、 |
| 交 通 業 | 一八、八〇、九五〇、 | 三、九四、七四九、 | 三、七五五、六九九、 |
| 有業者計 | 五三、二七七、 | 一九、一四、一五二、 | 二四、六七七、八九二、 |
| 無 業 | 二、四四、五九九、 | 三、〇六、九〇〇、 | 四七、四三、五九九、 |
| 十歳以上 | | | |
| 総 人 口 | | | |

而して更に之れを一層簡單明瞭ならしむるが爲め男女有業者の百分比例を左に掲げん。

| | | | | |
|-----------|------|-----|------|--------|
| 職 業 | 男 子 | 女 子 | 全 上 | 職業百分比例 |
| 農、漁、鑛業 | 九二、五 | 七、五 | 三九、六 | |
| 公 務 及 | | | | |
| 自 山 業 | | | | |
| 家内の勤務及身勤務 | | | | |
| 商 業 及 | | | | |
| 交 通 業 | | | | |
| 有業者計 | | | | |
| 無 業 | | | | |
| 十歳以上 | | | | |
| 総 人 口 | | | | |

| | | | |
|---------|------|------|-------|
| 公務及自有業 | 六七、〇 | 三三、〇 | 四、一 |
| 家内及身廻業務 | 六一、七 | 三八、三 | 一九、一 |
| 商業交通業 | 九三、一 | 六、九 | 一四、六 |
| 工業 | 七九、八 | 二〇、二 | 一三、三 |
| 計 | 八二、四 | 一七、六 | 一〇〇、〇 |

即ち婦人有業者は單に全体に於て遠く男子に及ばざるのみならず各業に於ても家内及び身廻の勤務に於て有業者の三割八分強を占むるの外皆遠く男子に及ばざるなり。特に職業として重要な位置を占むる農業、工業及び商業に於ては其差異一層大なるを見る。

今右に擧げたる統計の内容を見るに婦人の公務及び自由業の重なるものは教員、音樂師及び音樂教師にして家事及び身廻の勤務中百二十一萬六千六百三十九人は下婢、二十一萬六千六百三十一人は洗濯業、八萬六千〇八十九人は家番及び給仕、四萬一千三百九十六人は看護婦、乳母及び産婆にし

て三萬二千五百九十三人は下宿業者あり。商業及び運輸業は主として近來に至りて婦人の爲めに開けたるものにして帳簿係、書記係、速記係等に從事するもの十一萬三千二百六十一人、賣子として同業に従事するもの五萬八千四百五十一人あり。又工業中二十八萬八千三百二十八人は女服裁縫業に、六萬八十七人は小間物業に、十六萬八千四百四十人は編物業に従事し而して純粹の機械工場に使役せられつゝある所の婦人は機械工場に二十二萬三千六百九十八人、其他の製造業者に九萬一千八百人ありと云ふ。

余輩は更に進んで一千八百八十年より一千八百九十年に至る十ヶ年間に於て如何に有業婦人の状態が變化したるかを見んと欲す。即ち同年間の婦人有業者は絶対數に於て百二十六萬七千五百五十四人、歩合に於て實に百分の四十七、四の大々的增加をなせり。而して此間に於ける男子有業者の増加の有様を見るに絶対數に於て四百〇七萬六千〇〇八人、歩合に於て百分の二十七、二の増加をなせり。即ち婦人の有業者の増加は絶対數に

於ては到底男子の比にあらずと雖も其歩合に至りては反て男子の遠く及ばざる所なり。左に婦人有業者の増加を各業につきて見るに

| 職業 | 一八九〇年 | | 一八八〇年に對する増加 | |
|--------------------------|-----------|----------|-------------|----------|
| | 絶對數 | 有業婦人百分比例 | 絶對數 | 有業婦人百分比例 |
| 農業 | 六七九、〇五九 | 一七、三五五 | 八四、八七八 | 一四、三 |
| 工業 | 一、〇二七、五五〇 | 二六、二五 | 三〇四、〇六四 | 四一、二 |
| 商業及 交通業 公務及 自由業 | 二二八、三三二 | 五、八三 | 一〇八、五四六 | 七五、八 |
| 家事及 身廻業 | 三二一、六八二 | 七、九六 | 一二〇、三三四 | 六二、九 |
| 合計 | 三、九一四、七一 | 一〇〇、〇〇 | 一、二六四、二七四 | 四七、四 |

即ち米國に於ても農業的有業婦人増加の速々たるに反し、商工業者の増加の著しきを見る。而して家事及び身廻り業に於て上述の如き著しく有業婦人の増加したるは是れ恐らく此方面に於て婦人の新職業の發現した

るが爲めなる可し。然らば同年間に於ける男子有業者増加の有様は如何と云ふに農業に於ては一割二分五厘工業に於ては四割三分三厘商業及び運輸業に於ては七割一分八厘公務及び自由業に於て四割八分五厘家事及び身廻り業に於て一割六分一厘の増加をみせり。由是觀之米國に於ては男子有業者の増加も亦頗る急激にして家事及び身廻りの業務を除きては殆んど其増加の割合男女間に於て大なる差異なきなり。是れ合衆國が獨英と趣を異にせる注意を要す可き現象なりとす。其然る所以のものは抑も何か。想ふに一千八百八十年乃至九十年の頃に於ては米國の經濟は經濟學者の所謂一種のカメララール、ツイトシヤント (Kameral Wirtschaft) とはポール氏の經濟發達の分類に基くものにして氏が經濟發達の順序を第一 Hauswirtschaft 第二 Kameralwirtschaft 第三 Terliarwirtschaft となせる第二位のものを指すなり。即ち國民が其自給の目的にて貨物を生産し其剩餘を交換賣買する經濟を云ふなり。たりしものにして諸種の富源到る所に散在し各種

の企業亦有利ならざるはなし。故に國人は其富源の開發に忙はしく企業
の勃興亦著しく従て勞動力の需要頗る強大なり。而して歐亞諸國よりの
移住等の結果に基く人口の大々の増加は或は果となり或は因となりて一
層職業的需用を大ならしむ。是れ即ち米國に於て歐洲諸國に於けるより
も一般有業者の増加激甚なる所以にして従て婦人有業者増加の主因たり
上述の如く一時世界に於ける倉庫と呼ばれ金庫と稱せられ諸國の人士
をして羨望措く能はざらしめたる米國も社會の大勢には敵し難く貧富の
懸隔は日に月に甚だしく資本の集中亦た實に世界に冠たりと稱せらる。
所謂一富を作らんとして萬貧を生ずるの悲惨は亦た遂に米國に於ても免
る能はざる所となれり。誠なるかな。従前にありては主として國富開發の
爲めに増加したる婦人の職業も今は家計困難の爲めに從業の止むを得ざ
るに至れり。而して其傾向最近に於て特に著しと云ふ。等しく婦人從業
者の増加なり。然かも僅々十年の短日月にして前後其増加の理由を異に

す。社會の變遷實に驚く可きにあらずや。而して同國に於ける最近の職
業統計なりと云ふを聞くに婦人の有業者は一千八百九十年に於て四百萬
なりしもの今や既に五百萬人に餘れりと云ふ。
即ち一千八百九十年と一千九百年との間に於ける婦人職業増加の有様
を見るに下の如し。

| 職 業 | 一八九〇年 | 一九〇〇年 | 一八九〇年に對 する増加の割合 |
|---------|-----------|-----------|--------------------|
| 農 業 | 一八九、〇〇〇 | 一九七、三三六 | 四割四分 |
| 工 業 | 一、〇二七、五五〇 | 一、三三三、二〇四 | 二割八分 |
| 商 業 | 二二八、三三二 | 五〇三、三四九 | 一倍と二割二分 |
| 家事及身廻り業 | 一、六六七、六八六 | 二、〇九五、四四九 | 二割五分 |
| 公務併に自由業 | 三三一、六八二 | 四三〇、五七六 | 三割九分 |
| 計 | 三、九一四、七四九 | 五、三一九、九一四 | 三割六分 |

之れを一千八百八十年と一千八百九十年との間に於ける増加の割合に

比較するときは農業及び商業を除きては前者に及ばざるのみならず總体の割合に於ても亦た然り、然れども其絶對數に於ては前者の百二十六萬四千二百七十六人に對し百四十萬千六百六十五人の多きに達せり、而して更に其増加の内容を瞰ふに大に吾人の注意せざる可らざるものあるなり即ち全年の調査によるに男子の従事しつゝある職業の總體三百三種中婦女子の従業せざるもの僅かに三種に過ぎずして其他は皆多少婦人の侵入を見ざるなしと、今其最も著名なるものを擧ぐれば次の如し。

| 職業 | 人數 | 職業 | 人數 |
|------|-------|--------|------|
| 鍛冶師 | 一九三人 | 借馬業 | 一九〇人 |
| 建築師 | 一〇四一人 | 石工及煉瓦工 | 一六四人 |
| 大工 | 五四五人 | 左官 | 四五人 |
| 電気工 | 四〇九人 | 土木技師 | 八四人 |
| 水先案内 | 數名 | 屋根葺業 | 數名 |

船長 一人

機械技師 五七二人

右諸種の職業の外大に増加したる職業にして一般社會の人々より特に注目されつゝあるものは自由業并に商業に關係する職業なりとす、即ち其重なるものを擧ぐれば、ペンキ屋は一千七百五十九人、鐵道業に關係するもの一千七百六十六人、理髮業者は五千五百七十四人、女醫八千百十九人、齒科醫八百七人、美術家及美術教師は一萬一千卅一人、新聞記者二千百九十三名、法律家一千十人にして婦人の宜教師は最近十年間に實に三十割の増加をなせりと云ふ、商業に従事する婦人の増加は亦頗る著しく其重なるものを擧ぐれば一千八百九十年に於て十一萬三千二百六十一人なりし帳簿係書記生及速記者は十六萬六千九百五十五人となり、又僅かに五萬八千四百五十一人なりし商店の賣子は實に十五萬人に餘るに至りしと云ふ、更に進んで同國に於ける比較的高等なる婦人有業者の淵源たる各種實業教育につきて見るに其進歩の度近年に於ては男子に於けるよりも顯著

なるものゝ如し。彼の神學、法學、醫學、齒科藥學、獸醫學、工業、農學等の職業學校に於ける女學生の數は近年著しく増加したるのみならず、其増加の割合に於ても男子より強大なり。即ち一千八百九十年より九十八年に至る八ヶ年間に於て醫學生の増加は男子は百分の五一・一あるに對し女子は百分の六四・二齒科は男子の百分の一五〇・二に對し女子二〇・五七藥學科は男子の百分の二五・九に對し女子は百分の一九〇・〇工科及農科は男子の百分の一・九三に對し女子は百分の一九四・七なり。如斯き比例を以て職業學校に於ける女學生の數は増加せりと雖も然かも絶對數に於て之を男子學生と比較すれば素より同日の論にあらざるなり。例へば一千八百九十八年に於て女子の最も多く修學しつゝありしものは工業及び農業に屬する職業學校なるが然かも其の數僅かに二千二百八十一人に過ぎず。之れを同種の學校に於ける學生の總体に比較するときは僅かに百分の一・六一を占むるに過ぎず。醫學に於ては遙かに僅少にして百分の六に過ぎず。併て世

上に喧傳されし法學に至りては實に百分の一・三に相當するに過ぎず。唯だ夫れ方面は少しく異あれども教育界に於ける女教員に至りては實に其増加の度の顯著なるのみならず、絶對數に於ても男子に比し女子の方有勢なるが如し。蓋し米國に於ける一千八百六十一年より五ヶ年に涉りし内亂は男子をして多く戰爭に従事するの止むを得ざるに至らしめ爲めに初等及び中等の教育界に婦人の進入するもの多く而して此傾向は單に一時的に止まらずして爾來漸く其増加の度を高め今日に至る迄、初等教育及び中等教育に於ける女教員の勢力男教員の上にあるものゝ如し。左に各年に於ける米國女教員數の教員總數に對する百分比例を示さん。

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 一八七〇—七二年 | 一八七九—八〇年 | 一八八九—九〇年 | 一九〇一—〇三年 |
| 五九、〇 | 五七、二 | 六五、五 | 七〇、一 |
| | | | 七二、二 |

而して一千九百〇二年に於ける男教員の總數は十二萬二千三百九十二人にして女教員の總數は三十一萬七千二百〇四人なり。即ち女教員の男

教員の數より多きと實に十九萬四千八百餘人なり。故に米國に於ては教員なるものゝ代名詞は男性の彼れ *He* にあらずして女性の「彼女」 *She* の方專用せらるゝと云ふ。尙ほ小學教員の源泉たる師範學校學生を見るに男生徒一萬二千二百〇九人に對し女生徒は三萬七千九百九十四人の多數を占むと云ふ。(一千九百〇二年の調査)

北米合衆國に於ける婦人職業状態大畧前述せるが如し。而して余は最後に同國に於ける婦人職業につき一の附言すべきものあるなり。吾國の學者動もすれば北米合衆國は婦人の職業に従事するもの歐米諸國中最も多きが如く唱導し婦人有業者の例として常に北米合衆國を引証す。然りと雖も如斯は大なる誤解にして事實は全く之れと相反對せるなり。何となれば前に第三章に於て述べたるが如く北米合衆國は歐米各國中婦人有業者の割合最も僅少なる國なればなり。(各國對照表參考想ふに米國婦人は之れを歐洲諸國の婦人よりも比較的に自由思想に富めるが故に單に此

一事より推測して婦人有業者も亦た之れを他國に比して多かる可しと考へたるよりかゝる誤謬に陥りしなる可し。唯だ夫れ比較的高等なる職業として見るべき公務及自由業に關する職業は之れを他國に比し米國は比較的に多きが如しと雖も敢て顯著なる現象として特筆すべき價值あるにあらず。乞ふ試に左表を見よ。

| | | | |
|----|------------|--------------------|---------------------------|
| 英國 | 四、〇〇六、二三〇、 | 公務及び自由業 に於ける有業者 | 婦人總有業者に對する公 務及び自由業者の割合 |
| 獨逸 | 六、五七八、三五〇、 | | 三分二厘五毛 |
| 米國 | 五、三一九、九一四、 | | 二分七厘四毛 |

(註)英國は一千八百九十一年、獨逸は同九十五年、米國は一千九百年の調査による)

即ち絶對數に於ては常に英獨に優るのみならず恐らく世界何れの國よりも多數を占む可しと雖も關係的には尙ほ未だ英國に及ばざるなり。由

是觀之、一般に米國に於ける婦人の職業は之れを他國に比し、比較的僅少な
 るのみならず、公務及び自由業に於ても未だ必ずしも他國に冠絶せりと云
 ふ可からざるなり。唯だ夫れ公務業の一種たる女教員の類に至りては他
 國に比し、絶對的にも關係的にも大に優るあり。以て一つの特種現象と
 して見ることを得べし。

即ち歐洲諸國中女教員の數に於て最も多數を占むる英國の十二萬三千
 九百九十五人に對して米は實に三十一萬七千二百〇四人の多きを占むれ
 ばなり。

第參款 英國(イングランド及ウェールズ)

に於ける婦人職業狀態

第十八世紀末より第十九世紀に於ける商工業の先進國たる英國の婦人
 職業の變遷の狀態を見ることは頗る興味ある事となり。

一般に云へば一千八百八十一年より九十一年迄の間に於て同國婦人職

業の狀態は甚だしき變動なきものゝ如し。即ち同年の間に絶對數に於て
 六十萬二千三百七十三人有業婦人百人につき十七人六の増加に過ぎざる
 なり。之れを人口と對照するに一千八百八十一年に於て十歳以下の女子
 を除き婦人一萬人につき有業婦人三千四百五人なりしもの同九十一年に
 は三千四百四十二人に増加せしに過ぎず。男子にありては同年間に八千
 三百二十四人より八千三百十四人に減少せりと云ふ。由是觀之英國に於
 ては素より絶對數に於ては男女有業者共に多少の増加をなせしと雖關係
 的には男子にありては反て減少し婦人にありても其増加の割合の遅々た
 るを知る可し。如斯婦人有業者の増加甚だ遅々たりと雖も其内部に於け
 る職業の變動は敢て僅少にあらざるなり。即ち家事勤務の下婢木綿品製
 造、シャツ製造、縫女、農業日傭女は減少して女裁縫師、看護婦、雜貨製造及販賣
 等に從事する婦人増加せり。コルレット嬢は此職業の内部變動を以て工
 業に機械の侵入したると都會移住者多きとの結果なりと云へり。

英國最近の婦人有業者の増加は上述の如く遅々たりしと雖も同國に於ても亦嘗て婦人有業者の大々的増加を見たる時期ありしものゝ如し。ジョン・ホッヅン氏の調査せる所によりて見れば同國に於ける或る主要なる製造業に於て之れに従事する婦人の數一千八百四十一年には四十六萬三千六百人なりしもの一千八百九十一年には實に百四十四萬七千五百人に増加し而して其増加は重に一千八百四十一年より六十一年迄の間に於て爲したるものなりと。思ふに英國に於て有業婦人の著しき増加は主に此時代に於てなされたるものにして即ち是れ英國が商工業の先進者として其婦人増加の時期も之れを他國に比し比較的速かありし所以か。今一步を進めて上述せる一千八百八十一年と九十一年との間に於ける有業婦人増加の狀態を各業につき見るに下の如し。

職業

一八九一年

一八八一年に對する増減

絶對數 有業婦人百につき

| | | | | | |
|--------|------------|-----|----------|-----|------|
| 農業 | 五二、〇二六、 | (一) | 一一、八一四、 | (一) | 一九、強 |
| 工業 | 一、八四〇、八九八、 | (十) | 二六二、七〇九、 | (十) | 一六、強 |
| 商業及運輸業 | 二五、三五八、 | (十) | 五、九五二、 | (十) | 三一、強 |
| 公務及自由業 | 三三八、三九八、 | (十) | 二二二、二七三、 | (十) | 六七、強 |
| 家事的業務 | 一、七五九、五五五、 | (十) | 二二四、二五三、 | (十) | 十三、強 |
| 合計 | 四、〇〇六、二三〇、 | (十) | 六〇二、三三三、 | (十) | 一七、六 |

即ち十九世紀の商工業の先進國として正に中天の太陽なりと稱せらるる英國に於ても商工業に於ける有業婦人の増加は實に有業婦人増加全体の半を占む。亦以て近世商工業の勃興が婦人從業者を増加せしめたりとのことの吾人を欺かざるを知るに足らん。而して此間に於ける男子有業者の狀態は如何

職業

一八九一年

一八八一年に對する増減

絶對數 有業者百人に對して

| | | | | | |
|------------|------------|-----|----------|-----|------|
| 農業 | 一、二八四、九一九、 | (一) | 三三、四二五、 | (一) | 二、五 |
| 工業 | 五、四九五、四四六、 | (十) | 五二〇、二六八、 | (十) | 一〇、四 |
| 商業及 運輸業 | 一、三六四、三七七、 | (十) | 四一三、七一六、 | (十) | 四三、五 |
| 公務及 自由業 | 五九七、七三九、 | (十) | 一四六、七八四、 | (十) | 三二、五 |
| 家事的 業務 | 一四〇、七七三、 | (一) | 一一七、七三五、 | (一) | 四五、五 |
| 合計 | 八、八八三、二五四、 | (十) | 九二九、六〇八、 | (十) | 一一、六 |

即ち之れを上表婦人有業者の増加と比較對照するに商業に於ける小差を除きては一般に婦人有業者増加の割合男子に比し大なるを見る。唯、農業界に於ける婦人從業者の著しき減少は是れ、最近に於ける英國農業の衰退に源因するものにして、又以て社會變遷の職業上に及ぼす影響の大なるを見る可し。

英國に於ける有業婦人の社會上に於ける地位につきては之れ等のことに關する統計を發見すること能はざるが故に其状態を詳述するに由なし

と雖も英國に於ても亦た獨逸に於けるが如く一般に婦人有業者は之れを男子有業者に比較し其社會上の地位の可憐なるは各種の書籍に散見する所なり。今此事に關し蘇格蘭の統計を見るに同國に於て公務、海陸軍、専門業及び家内勤務等、使役者、被使役者の別明瞭なるものを除き各業に従事する者を使用者、被使用者及び自立營業者の三階級に分てば次の如し。

| | | | | |
|----|---------|----------|---------|----------|
| 体性 | 使用者 | 被使用者 | 自立營業者 | 計 |
| 男子 | 五六、七八九、 | 五〇五、三二三、 | 四八、八八一、 | 六一〇、九八三、 |
| 女子 | 七、三二六、 | 二二〇、七二六、 | 三七、九一四、 | 二五五、九四六、 |
| 合計 | 六四、一〇五、 | 六一六、〇二九、 | 八六、七九五、 | 八六六、九二九、 |

即ち男子にありては使用者は被使用者の九分の一に相當すれども女子にありては僅かに三十分の一に相當するに過ぎず。換言すれば男子にありては被使用者九人につき使用者一人の割合なるに女子にありては被使用者三十人につき使用者一人の割合なり。自立營業者に於ては婦人の方

男子に比し比較的多數なりと雖も此階級の有業者は多く僅少の資本を以て營業に従事しつゝあるものなるが故に其社會上の地位は寧ろ劣等なるもの多しと云ふ。由是觀之蘇格蘭に於ける婦人有業者の地位亦以て知る可きなり。素より是れ等の統計は單に人口の一部分につき調査したるものに過ぎざるが故に満足す可きものにあらずと雖も前獨逸に於けるものと相對照して以て有業婦人の社會上に於ける地位を推測するの資となす可し。

然るに一千八百八十一年より九十一年の間に於てイングランド及ウェールズに於て大に注目す可き事實出現せり。即ち同年間に於ける増加は主として高き地位に於ける有業婦人の増加なりしこと是なり。此事に關し、エリーザ・イ・ヘンホイセル氏曰く、イングランド及ウェールズに於て一千八百八十一年より九十一年迄の間に於て六十萬餘の有業婦人の増加したるは是れ主に技術上並に社會上從來よりも比較的優等なる地位に於け

る職業に於てせるものなりとて次の如き重なるものを列挙せり。

| 職業 | 一八八一年 | 一八九一年 | 職業 | 一八八一年 | 一八九一年 |
|------------|---------|---------|-----------|----------|---------|
| 官吏及 吏員 | 六、三三、 | 三、七二、 | 郵便及 電信 | 三、三六、 | 四、三六、 |
| 教員 | 二、三、九五、 | 一、四、五五、 | 宣教師 | 一、六〇、 | 五、一五、 |
| 產婆及 看護婦 | 七、八二、 | 五、九四、 | 書工及 彫刻 | 一、九〇、 | 四、二四、 |
| 商店補 助員 | 五、九九、 | 一、七、八五、 | 園藝女 | 三、〇六、 | 五、〇四、 |
| 音樂師 | 二、三、七、 | 二、九、二二、 | 俳優 | 二、九元、 | 四、六六、 |
| 寫真師 | 一、三〇元 | 三、四九元、 | 裁縫女 | 五、七〇、 | 八九、三四、 |
| 製本女 | 一〇、五二、 | 一四、二四元、 | 裝飾品 製造 | 三、五七、九五、 | 四、五、六二、 |
| 合計 | 六九、五三、 | 七五、四二、 | | | |

英國が婦人有業者増加に於て如斯現象を呈したるものは是れ頗る重要な現象にして是れ即ち近世商工業國の先進國たる英國の英國たる所以か

第 三 節 英米獨に於ける婦人職業と

縁事との關係

凡そ婦人有業者と縁事との關係を研究するは單に婦人職業問題を講ずるに當りて必要なるのみならず亦緊用なる社會問題解決に資たること決して僅少にあらざるなり。故に余輩は左に少しく之れにつき述ぶる所ある可し。

先づ獨逸につきて之を見るに(百分比例)

| | | | |
|--------|--------|-------|-------|
| 未婚者 | 有配偶者 | 嫁 | 寡 |
| 男三九、二三 | 五七、三一 | 三、四六 | |
| 有業者 | 女五九、〇八 | 二二、六〇 | 一九、三二 |
| 男八七、七二 | 一〇、一〇 | 二、一八 | |
| 僕 | 女九五、五二 | 一、〇〇 | 三、四八 |
| 婢 | | | |

上表によりて之れを観るに有業男子の半數以上は有配偶者たるに拘はらず婦人にありては未婚者殆んど有業婦人全体の六割を占め有配偶者は僅かに五分の一強に相當するに過ぎず。而して如斯現象は單に獨逸に於てのみならず各國皆然らざるはなし。乞ふ試に米國につき之れを観よ。

絶 對 數

| | | |
|------|-----------|---------------------|
| 未婚者 | 二、七三三、八二五 | 十歳以上の單身女百人に對して二八、〇〇 |
| 有配偶者 | 五一五、二六〇 | 既婚女百人に對して四、六 |
| 寡 | 六三〇、二六八 | 寡婦百人に對して二九、三 |
| 離婚婦人 | 五五、二一八 | 離婚女百人に對して四九、〇 |

即ち有業婦人の有配偶者は僅かに婦人總有業者の七分の一弱に相當するに過ぎずして其多くは未婚婦人にして特に最も多くは若年なる未婚婦人たることは明らかに次表の證明する所なり。

男 子 女 子

| 年 齡 | 就業者實數 | 同年齡の男女 子百に對する比例 | |
|----------|------------|--------------------|-----------|
| | | 男 | 女 |
| 自十歳至十歳 | 四〇〇、五八六 | 一一、二 | 二〇二、四二七 |
| 自十歳至十一歳 | 一、九〇四、八六五 | 五八、六 | 九〇六、二四〇 |
| 自十一歳至十二歳 | 二、八五六、九九三 | 九二、〇 | 九四七、二二〇 |
| 自十二歳至十三歳 | 四、九八九、八七四 | 九七、四 | 八〇七、〇七〇 |
| 自十三歳至十四歳 | 三、六二六、三五六 | 九七、九 | 四四一、〇六七 |
| 自十四歳至十五歳 | 二、五三八、四五九 | 九六、六 | 三二一、三六三 |
| 自十五歳至十六歳 | 一、五二四、六一五 | 九二、九 | 一八〇、三八七 |
| 自十六歳至十七歳 | 〇一〇、八〇五 | 七、三八 | 〇八、一五八 |
| 年歳不詳 | 七八、五〇七 | 不詳 | 一八、〇三八 |
| 總計 | 一八、八二一〇、九〇 | 七七、三 | 三、九一四、五七一 |

上表に依りて之れを観るに男子有業者にありては十九歳以下の若年者

に於て其従業者數少く其多きは主として廿五歳以上の者にあり反之婦人にありては廿四歳以下の若年者に有業者多くして廿五歳以上の者にありては其數次第に遞減す。換言すれば男子有業者は廿五歳より廿四歳迄の間に於て最高度を示すに反し婦人にありては廿歳より廿四歳迄の間に於て其最高度を呈示す。如斯婦人有業者に若年の者多きは是未婚者の従業者多き實証たること前々表と對照する時は自ら明らかなる所なり。依て知る男子にありては結婚は職業的欲望を奨励するに反し婦女子にありては結婚は職業的欲望を減退せしむるものにして即ち婦人にありては配偶を得れば忽ち職業を放棄する者の多きを、彼のステットソンの娘が男子は職業を得るによりて生活の資料を得婦人は結婚によりて生活の資料を得と云ひたるは少くとも過去の歴史上一面の眞理を包含するものと云ふ可し。

以上述ぶる所により一般有業婦人には未婚者の多きことを推知するに

足らん、余は今更に進んで之れ等有業婦人の縁事の關係を一層詳細に研究せんが爲め各業につきて觀察する所あらんとす。

先づ一千八百九十五年の調査による獨逸の婦人有業者につきて見るに〔家内に於ける下婢を除く〕

| 職業 | 未婚者 | 有配偶者 | 寡婦 |
|--------|-----------|-----------|---------|
| 農業 | 一、六五一、五二四 | 六二五、三〇一 | 四八六、三二九 |
| 工業 | 一、〇四八、八一八 | 二五〇、六六六 | 二二一、六三四 |
| 商業及運輸業 | 三三三、九六六 | 一二九、一七六 | 一二六、四六六 |
| 日備 | 一二二、二六六 | 二八、五九五 | 八三、〇〇四 |
| 公務及自由業 | 一三五、八一五 | 二二、六四三 | 一八、一九〇 |
| 合計 | 三、二八二、四八九 | 一、〇四六、三八一 | 八〇九、一五七 |

即ち各業に於て悉く未婚有業者は既婚有業者に比し多數を占むると雖も其兩者の割合に至りては各々相異なるあり。即ち既婚婦人の未婚有業

者に對する割合は農業に於ては三割七分弱、工業に於ては二割四分弱、商業及運輸業に於ては四割弱、日備に於ては二割五分弱、公務及び自由業に於ては一割五分強に相當す。而して比較的多くの有業者を有する農業及び工業に於て、農業の方は單に實數に於てのみならず、其未婚者に對する割合に於ても、工業の方に比し有配偶者の多きは一つの注目すべき現象なり。即ち近世工業は多く工場的大工業組織なるが故に有配偶婦人の従事困難あるに反し、農業は比較的容易なることを表証するものならずんばあらず。而して商業に於て有配偶婦人の比較的多きは是れ中小都會に於ける家内的小營業主多きが爲めなる可し。

更に一步を進めて獨逸に於ける千八百八十二年と千八百九十五年との間に於ける有業婦人と縁事との關係の變化の狀態を見るに有配偶的有業婦人は著しく増加せるを見るなり〔婦人有配偶及び無配偶とに分ち後者の内に寡婦を含む〕

一八九五年

一八八二年

| | 絶對數 | 百分比例 | 絶對數 | 百分比例 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 無配偶者 | 四二二、萬 | 八〇、一二 | 三五六、萬 | 八三、六二 |
| 有配偶者 | 一〇四、六 | 一九、八八 | 六九、七 | 一六、三八 |

即ち有配偶者の増加の割合は四九、八プロセントなるに無配偶者は僅かに一八、五プロセントに過ぎざるなり。獨逸に於ける如斯有配偶的婦人有業者の増加は果して同帝國に對して嘉すべき現象なりや否や。余輩は否と答ふるを憚らざるなり。蓋し後に述ぶるが如く有配偶婦人の従業は之れを無配偶婦人の従業に比し社會上道徳上に於ける弊害一層重大なればなり。乞ふ余輩をして眼を合衆國に轉せしめよ。

| 職業 | 有業者百人につき有配偶者 | 同寡婦 | 同未婚者 |
|----|--------------|------|------|
| 農業 | 二二、五 | 三三、二 | 四四、三 |
| 工業 | 一〇、七 | 九、四 | 七九、九 |

| 職業 | 絶對數 | 百分比例 | 絶對數 | 百分比例 |
|--------|-------|-------|------|------|
| 商業及運輸業 | 七、四 | 九、七 | 八二、五 | |
| 公務及自山業 | 六、九 | 四、六 | 八八、五 | |
| 家事及婢 | 二二、八 | 一六、三 | 七〇、九 | |
| 合計 | 一二、〇六 | 一四、六四 | 七三、三 | |

即ち合衆國に於ても獨逸に於けると同じく有配偶婦人有業者の多くは農業に従事す。是れ蓋し獨逸の場合に説明したると同様なる理由に基くものなる可し。合衆國の如き大農組織の國に於ても尙ほ且つ如斯。況んや小農組織の國に於てをや。

要之獨逸に於ても合衆國に於ても共に有配偶有業婦人は無配偶的有業婦人に比し頗る僅少ななるは前掲統計の明示する所たり。然りと雖も此有配偶的婦人に家庭内に於て殆んど同様の關係の下に立つ寡婦を合算する時は此種の有業婦人は獨逸に於ては二百萬人、合衆國に於ても亦實に百萬人以上となる。而して之れ等の婦人は大抵其家庭を整理するの外尙ほ職

業の重荷を負担す。嗚呼婦人就業の弊害就中其國民の後裔に及ぼす精神上並に肉體上の危殆其母たる婦人に於て最も顯著なりとすれば之れ等婦人有業者に對する問題は亦一種の社會問題として大に注目せざる可からざるなり。彼のラウフベルヒ氏が婦人職業問題の中心點を有夫及び有兒婦人の就業にありと謂へるも亦た宜なりと云ふ可し。

米獨兩國に於ける有業婦人緣事關係大畧上述せる所の如し。獨り英國に至りては近時に至り少しく異りたる現象を呈するに至れり。即ちコレット嬢の言に依れば英國に於ては一般に有配偶婦人の職業減少せり。單に永久的職業に於てのみならず一時的職業に於ても減少せり。其婦女子の有業者の増加せるは是れ主として廿五歳以下の未婚婦人の有業者の増加したるが爲めにして畢竟中等社會に於ける婦女子の職業増加するに由ると。亦以て商工業の先進國たる英國が有業婦人緣事の關係に於ても他國と異なる趨勢を有する所以を知るに足る可し。

第四節 結論

英米獨三國に於て婦人の職業狀態大畧前述せるが如し。而して是れ等三國は各々世界の富者として現今の經濟界に覇を唱へつゝあるものなりと雖も其國情と經濟組織との異なるにより其婦人職業の狀態亦た自ら異なる所あり。即ち英國に於て工業界に於ける有業婦人最多數を占むるに獨逸に於ては近時商工業の勃興頗る顯著なるに拘らず尙ほ未だ農業的有業婦人最多數を占むるが如き或は米國に於ては之れ等農業にも又た工業にもあらずして家事及び身廻の業務に於て最も多くの婦人が従業しつゝあるが如きは其最も著しきものとす。

又た吾人は各業に於ける有業婦人の多寡は其男子有業者の多寡に正比例するが如く考ふるの傾あるも事實は大に之れと相異なるものあり。乞ふ試に次表を見よ。

(便宜の爲め各業を現はすに符合を以てし、農業はA工業はI商業はT
家内及び身廻の業務はS公務及自由業はOを以てす)

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 獨 | 逸 | 米 | 國 | 英 | 國 |
| 男子 | A1 | I2 | S4 | O5 | A1 | I2 | S4 |
| | | I3 | S4 | O5 | A1 | I2 | S4 |
| | | I4 | S5 | O5 | A1 | I2 | S4 |
| | | I5 | S5 | O5 | A1 | I2 | S4 |
| 女子 | A | S | I | T | O | S | I |
| | A | S | I | T | O | S | I |
| | A | S | I | T | O | S | I |
| | A | S | I | T | O | S | I |
| | A | S | I | T | O | S | I |

即ち獨の農業及び公務并に自由業と英及び米の工業とに於ては其男子の多寡と正比例をなすと雖も其他の各業に於ては各々其多寡を異にせるを見る。是れ即ち男女性を異にするにより其職業の種類も亦異なる所以を證明するものにあらずして何ぞや。然りと雖も其増加の割合に至りては概して男子有業者の割合に類似せるは又た一つの注目す可き現象たり。即ち獨逸に於ては男子有業者増加の度の比較的大なるは商工業及び公務并に自由業にして婦人に於ても亦た然り。米國に於ても全く獨逸と同様なる現象を呈し、英國に於ても男子の公務并に自由業及び商業なるに對し

婦人も亦然るなり。(家事的業務は之れが例外なり)特に商工二業に於て然りとす。此二業は男子に於ても其増加大なるが如く婦人に於ても亦然るなり。即ち英獨二國に於ては婦人有業者増加全体の二分の一以上を占め米國に於ても三分の一を占む。亦た以て近世商工業勃興の趨勢を知るに足る可し。

要之英國は十九世紀に於ける商工業の先進國たるの故を以て婦人の職業状態も亦た最も多く變遷を経たるものありて吾人の注視す可きもの寡なからざるなり。獨逸は近來漸く農業國たる特質を脱して工業國たらんとするの蹟著し。故に婦人有業者の増加も亦其傾向の照々たるは亦た自然の勢と云ふ可し。米國は商工農何れの職業に於ても其勃興の氣勢驚く可きものありと雖も婦人有業者の増加は商工業方面に多きのみならず其増加の度亦た商工業に於て強大なるを見る。於是、知る、近世に於ける商工業の勃興は婦人の職業と頗る密接なる關係を有することを。

第四章 我國に於ける婦人職業

第一節 緒論

歐羅巴に於て佛國革命以前の婦人の社會上に於ける地位の甚だ卑かりしが如く吾國に於ても維新以前に於ける婦女子の社會上の地位は亦頗る憫然たりしなり。豈管に維新以前に於てのみならずや現今に於ても吾國の婦女子の地位を歐米諸國の婦女子の地位に比較對照する時は其の差異決して僅少にあらざるなり。想ふに從來吾國の思想及風紀を支配せし宗教并に道德は婦女子の權利行動を驅束するを以て家庭及び社會の秩序を維持する所以と思考したるが如し。視よ儒教に於て婦徳として唱道せられたる三從七去の如き或は夫唱婦從と云へるが如き婦人は唯唯々々男子の鼻息を窺ひ男子の爲に行動するの謂ひは外ならざるにあらすや。教育の如きも専ら此趣旨に出で、貞原益軒の如きも尙ほ支那流の精粕を嘗め

て苛酷ある女子教育法を説けり。加之他方に於て佛教も亦著しく吾國民の人世觀に影響を興へたるものゝ如し。其教義に由れば婦人は之を男子に比すれば罪業頗る深大なるものなるが故に現世に於ては出來得る限り其罪業の消滅の爲めに艱難辛苦を甘受せざる可からず。素より佛教の眞の教理の那邊にあるかは余輩の知る所にあらすと雖も其事實として現出せし所のものは大畧上述せるが如し。

吾國從來に於ける婦人觀夫れ如斯故に其職業の如きも農業を除きては殆んど見る可きものなく其是れあるものと雖も之れを男子の職業に比すれば其範圍頗る狭少なるのみならず其地位の如きも亦た頗る卑しきものなりしが如し。今節を改めて少しく維新以前に於ける婦人職業の歴史の大畧を述べんと欲す。

第二節 維新以前の婦人職業

歐米諸國に於て農業が婦人の職業として最も早くより行はれたりしが如く吾國に於ても農業界に於て最も早く婦人の職業を見たるは亦争ふ可からざる事實なるが如し。

夫れ人生るれば必ず食物を要す。而して原人 (Primitive Men) は如何なる種類の食物を食しつゝありしやにつきては學者間に争の存する所なりと雖も假りに現今に於ける野蠻人種を以て原始時代の人類に類するものと見る時は最劣等の人種は其手續の煩勞を避けんが爲め肉食を避けて、菜食をなせしものゝ如し。素より肉食も全然爲さざりしにあらざる可きも原始時代の人類は菜食を主として肉食を従としたるものゝ如し。而して職業としての見地よりすれば肉食の資料を獲ることは其勞力を要すること到底菜食の資料を蒐集するの比にあらざるなり。故に体力に於て優秀なる男子は専ら漁獵の職に従事し、体力の柔弱なる婦女子は専ら菜芽及び果實の蒐集に従事せしものゝ如し。而して此菜芽果實の蒐集より如何にし

て純粹の農業に進歩せしかにつきては或は家畜を馴養し之れを階段として眞の農業に進めりと云ひ或はハーン氏シユモルラー氏等の如く必ずしも家畜を馴養したる後のみならず此外に單に鋤の利用を知りたるのみにて眞の農業時代に入りたる民族ありと云ふが如く學説區々たりと雖も要するに菜芽果實の蒐集は是れ農業の根源にして、而して此農業の根源は正しく婦女子によりて開發せられたることは學者の畧ほ一致する所なり。如斯農業の開發が婦女子の手によりて成されたることを知らば爾後農業界に於て婦人従業者の比較的多く存在せし所以を推知するに難からざるなり。

我國の古史に依れば素戔嗚尊暴行甚だしく天照皇大神の祭の御田を妨害し春は重播種子(しままき)して其の畔を毀ち溝を埋め云々……と由是觀之皇太神の尊を以てすら尙ほ且つ祭の御田を親ら耕作爲し給へるものゝ如し。當時我國一般の婦女子が農業に従事したりしことを推知す可し。

又彼の大寶令に於ける口分田の規定によりて見るに人生るれば男子は二反女子は其三分の二を給ふとあり、其婦女子に對しても如斯口分田を賜はりし所以のもの素より其理由一にして足らずと雖も主として當時婦女子も尙は能く力役に堪へ耕作の業に従事したるが爲めならずんばあらず、視よ同大寶令の制によれば、男丁の外に女丁なるものありて公の爲め一定の期間男子と同様或る種の力役に従事しつゝありしことは青史に明記する所にあらずや。

後世儒佛の思想國民の思想界を支配するに及び女權次第に衰退し従て女子に對する口分田の如きも次第に減少し遂には全く其恩惠を蒙らざるに至り婦女子の社會上の地位實に惘然たるに至れり、如斯女權は滅殺され社會よりは暴壓酷待せられたる婦女も其農業的產業上に於ける勢力は決して滅却されざりしのみならず時勢の進歩と共に益大なりしなり、蓋し農業なるものゝ性質たる多くは他の各種の職業の如く人の耳目に顯著

ならざるものなるが故に農業界に於て人の耳目を聳動せしむるが如き活動は到底容易に望む可らず、従て陰々裏に於ては吾國家社會の爲め貢獻すること少からざりし婦女子の活動も一般社會の人士よりは比較的冷眼視せられしなり、然れども維新以前に於ては農業は實に我が國本をなせしものなり、さればこゝろ士農工商として士の次に置かれて工商よりも尊崇せられたり、故に國家の基礎は全く斯業の上に立ち其盛衰如何は直接に國家の消長興頽に大なる影響を及ぼせしなり、而して吾國の農業が斯くの如く國家に對して重きをなす裏面に於て吾人は亦た吾國の婦女子が國家に對する貢獻の鴻大なりしことを感せずんばあらざるなり。

多くの國に於て機械の業が主に婦女子の手によりて營まれたりしが如く吾國に於ても各種の機械の業は主として婦女子の手に成り、婦女子の手によりて發達したることは明らかに歴史の保證する所なり、古史に依れば素戔鳴尊暴行甚はだしく皇太神神衣(かむみ免)を織り給へるを見て天班

駒あまのぶちこまを剃きて齊服殿いみはたごのに投げ入れ云々……とあり。亦以て此種の機械の業が如何に古くより吾國に於て行はれつゝありしかを知るに足る可し。降て紀元六百年代の頃崇神天皇の朝人民の戸口を校して男には弭の調女には手の末調を課し給へり。即ち婦人は其自ら織りたる布帛を奉納せしなり。山是觀之既に此時代に於て婦女子も亦一國民として直接に其自ら織りたる布帛を以て納税の義務をさへ負擔せしものゝ如し。後に至り婦人の社會上の地位著しく低落し所謂男尊女卑の風習漸く盛んなりしと雖も機械の業は依然婦女子の手中に存在せしなり。雄略帝大に養蠶及び機械の業を獎勵し支那より織女を聘し吳絨漢織の術を傳へし以來中等以上の者多く絹布を用ひ之を以て需要の多き所供給之れに従ふの原則により婦女子の機械の業に従事するもの著しく増加し斯業の發達大に見るべきものありしと云ふ。平安の朝に至り都鄙共に機械の業大に進歩し各地方より貢獻する布帛は頗る精巧なるものあるに至れり。

りと。

室町の世將軍以下騎奔を極め盛んに土木を起し工藝美術の發達著しかりしと雖も婦女子の工藝に至りては毫も其進歩を見ず。唯僅に従前行はれたる機械縫物の業營まれたるに過ぎず。徳川の世戰國の後を受け萬事質素を以て俗とし糸束を以て旨とせし故從來進歩發達し來りたる機械の業も其初め更に見る可きものなかりき。然れども富力の進歩は到底永く士民をして此束縛に安んせしむるものに非ざれば五代將軍以後は士民共に奢侈に流れ富者大名等の需要に應せんが爲めには頗る華奢なる織物も世に出でたり。要するに維新以前に於て工業界に於ける婦人の職業は唯單に機械裁縫の業ありしに過ぎざりしなり。

商業界に於ける婦人の活動に至りては之れを農工二業に比し著しく後世に屬するものゝ如し。故に吾國古代に於て婦人が商業に従事したるの蹟は甚だ稀れなり。鎌倉幕府の意を民政に用るに及び商業大に發達し當

時市場には絹座、米座、炭座、干朶積座、相物座、馬商座の七座ありて各分業賣買せり。室町時代に至りて商座の數増加し鹽座、油座、茶座、酒座、魚座、紙座等新たに起る。當時婦女子の賣買に従事するもの多く穀類、酒類、麴、魚、豆腐、白布、白粉、帶絹、燈心、紅粉等は皆婦女子の商ふ可きものとして定まれりと云ふ。然るに徳川時代に至り商座の數大に減少し金銀座、銅座等に止まり他は皆株制度を立て個人に賣買權を與へて商賣せしむるに及び婦女子の商業に従事する者の數大に減少し唯僅かに販婦と稱して衣類を負ひ各所を徘徊して商業をなすものあるに止まれり。

公務并に自由業に關する婦人の職業は古來吾國に於ては多く見ざる所なり。唯大寶令の制定せらるゝや女醫なるものを置く。然れども其地位甚だ低く名は女醫なるも其實産婆、按摩及び針灸等を以て本務となすに過ぎざりしと云ふ。想ふに此種の職業は相當の學識技能を要するものなりと雖も前述の如く吾國維新以前には殆んど女子教育なるものなく、よしや

是れありと雖も斯の如き職業的能力を養成するが如きことは皆無にして唯單に所謂婦徳の涵養なるものを以て唯一の教育となしたればなり。唯だ技藝的業務として髮結業、普く全國に行はれしは世人の熟知する所なり。要之維新以前にありては婦人の職業として存在せしは唯だ農業と工業の一種として機械織縫業のありしのみ。其他の職業に至りては殆んど云ふに足るものなかりき。

第三節 輓近に於ける婦人の職業

明治維新の改革と共に從來産業發達の一大障壁たりし封建の制度は廢棄せられ士農工商の階級は打破せられ所謂産業自由の制度となるに及び各種の産業日進月歩の勢を以て發展せり。於是一般職業の種類増加と共に婦人の職業も亦た從て開發増加せられ茲に婦人の職業歴史上一つのわばくを作成するに至れり。輓近に至り歐米文化の輸入益々甚だしく婦

人の職業發展の聲漸く喧しく古來嘗て無かりし婦人の實業教育亦た大に勃興の運に向へり。婦人の職業獎勵が果して國家の健全なる發達の爲めに喜ぶ可き現象なりや將た社會の幸福と秩序安寧の爲めに歡迎す可きものなるや否やは近來歐米の學者實際家の間に大に紛争の存する所なりと雖も一般に婦人有業者の増加したるは蔽ふ可らざる所なり。吾國に於ても婦人の從業者が各種の方向に於て著しく増加しつゝあるは疑ふ可からざる事實なり。

斯の如く婦人の有業者は各種の職業方面に於て著しと雖も現今果して幾何の婦人が職業に従事しつゝあるか又た如何なる種類の職業に如何に多くの婦人が従事しつゝあるか又た如何なる種類の婦人が最も多く従業しつゝあるか又た男子との關係如何等の如きことは殆んど之れを知るに由なく唯各種の方面より臆測推知を逞うするの外なきなり。抑も一國に於ける各種の統計或は國勢調査特に職業統計の如きは其國社會の狀態を

知るが爲め執政家の一日も坐右になかる可からざる至緊至要のものなるが故に歐米諸國に於ては巨萬の費用を投じて之れが調査に汲々たるなり然るに悲哉吾國に於ては世運尙未だ此域に達せず世人亦た甚だ其必要を認めながら其意を果さずして遂に今日に至る。素より或る特種の統計例へば人口統計死亡統計出生統計の如きは官廳又は私立會社が必要に迫られて調査せるものありと雖も其費用の不充分なると其調査方法の不全なるが爲め吾人に満足を與ふ可きもの少し。又間々一二の府縣に於て調査せられたる職業統計ありと雖も頗る不備たるを免れざるなり。嗚呼如何に戦槌の餘光赫灼たるものあり武威の隆々たるものありと雖も願て斯の如きことを思へば實に背汗に堪へざるなり。於是か政府は明年を期し二百萬の巨費を投じて第一回國勢調査をなさんとすと云ふ。余輩は單に帝國の一員として之を祝するのみならず社會の爲將た學界の爲め喜悅措く能はざるなり。然りと雖も今日に於ては尙ほ未だ如何に多くの婦人

有業者あるかさへ知るに由なし。唯だ余輩は下に各種断片的統計より知り得たる材料を根據として其職業の狀態を論述せんと欲す。

〔余輩の推測する所にては吾國現時に於ける婦人の有業者は之れを歐米諸國に比し比較的に多かる可し。〕論者或は云はん吾國の婦女子は古來因循なり姑息なり消極的なり退隱的なり孔子の所謂婦人修内とは是れ數百千年間の婦人の教旨たり。故に今日に於ても婦人は一般に家庭内に退隱し多く職業に従事することを嫌惡す。從て婦人有業者は之れを歐米に比するときは頗る寡少なる可しと。言素より一面の眞理を含むと雖も熟考すれば一を知て二を知らざる言たるのみならず吾人の知り得たる事實は全く之れと相反するなり。素より前節に於て述べたるが如く吾國の婦女子は儒佛の特殊なる教旨により拘束せられ智識の程度の如きも之れを男子に比するときは大なる差異あるは事實なり。然れども實際儒佛の教旨の爲め拘束せられ家庭内に幽居せるは主として武家若しくは中流以上の

階級の家庭に屬する婦女子に限られ一般下民に至りては各其父兄たる者の職業に従事せるか少くとも之れが補助者たりしなり。一試に之れを農業及び工業に見よ、吾國の農業は實に過少農(Overagriculture)と稱す可きものにして歐米にて少農國として有名なる佛國よりも尙ほ一層小農組織の國なり。而して農業特に小農が比較的多く婦人の労働を吸収し得る事は既に前屢之れを述べたる所にして理論上に於ても實際上に於ても決して疑ふ可からざるなり。從て吾國の農業的有業婦人が歐米諸國に於けるよりも比較的多かる可きは亦た争ふ能はざる所なり。(其詳細の事に關しては後に述ぶる所ある可し)又工業界に於ける婦人の有業者につきて見よ、吾國工業界の重要部を占むる機械の業は實に都會となく寒村僻地となく經營せられ國として殆んど其獨特の産物を出さざるなし。而して其斯の如く産出せられつゝある各種の織物が多く婦女子の手によりて生産せられつゝあることを思はゞ之れ等機械の業に従事しつゝある婦人有業者の數の

多きことを推知するに難からざる可し。其他麥科業と云ひ製紙業と云ひ或は燐寸業と云ひ漆器業と云ひ之れ等の職業に従事しつゝある婦人を總合すれば工業界に於ける有業的婦人亦決して僅少にあらざる可し。(之れ等のことに關しても後に述ぶる所ある可し)要するに吾國に於ける婦人有業者が歐米諸國に比し比較的多かる可きは敢て喋々を待たざるなり。

余輩は先づ京都府の勸業統計により京都の職業統計を得たれば今左に之れを示さんと欲す。素より前述べたる如く頗る不完全なるを免れずと雖も亦た以て其大畧を知るに足る可し(卅四年末の調査)

| 職業 | 子 | | 合計 |
|----|---------|---------|---------|
| | 男 | 女 | |
| 農業 | 一八一、三三六 | 二三六、一三八 | 三二七、四七四 |
| 工業 | 二〇、二七七 | 五七三 | 二〇、八五〇 |
| 職工 | 二四、九六二 | 二五、二四四 | 五〇、二〇六 |
| 商業 | 三八、五〇五 | 四、七九七 | 四三、〇〇三 |

| | | | |
|----|---------|---------|---------|
| 雜業 | 二一、三二五 | 六、三三九 | 二九、六五四 |
| 總計 | 二八六、三九五 | 一七二、六九一 | 四六一、一八六 |

(上表中商業及び工業に於ける有業者は只單に商業主工業主として届出されたる營業上のみの統計にして其補助家族及役員等を含まざる可く又雜業とは如何なるものを包含するや明らかなるざれども婢僕を算入せざるものゝ如し。従て實の有業者は之よりも多かる可しと考ふ)

上表によりて見るときは府下に於ける婦人の有業者は婦人總數四十七萬九千六百九十五人の三割六歩弱にして男女有業者全体の三割七歩強に相當す。而して男子にありては其有業者は男子總數の殆んど六割にして有業者全体の六割三分に相當す。即ち知る吾國に於ても婦人の有業者は到底遠く男子に及ばざるを。然れども之れを歐米諸國に比較するとき其有業者の數割合に多數なるのみならず特に農業的有業婦人に於て最も然るを見る。即ち有業婦人の七割九歩は實に農業的有業婦人たり。是れ

吾國の農業が世界に有名なる小農組織なるの致す所にして又以て吾輩が農業特に小農が婦人の勞働を吸収すること大なりと述べたる所以を證するに足らん。以上は只單に一京都府に於ける職業統計の大畧なりと雖も推して以て吾國に於ける婦人有業者の概數を知るを得ん。

今又同年の調査にかゝる京都市の職業統計を見るに左の如し。

| 職業 | 計 | |
|----|--------|--------|
| | 男 | 女 |
| 農業 | 五八二 | 四二一 |
| 工業 | 一〇、六八〇 | 三八六 |
| 職工 | 三、二七六 | 八、九四一 |
| 商業 | 一七、二六〇 | 二、〇三三 |
| 雜業 | 九、〇九二 | 四、六二六 |
| 合計 | 四〇、七九〇 | 一六、七〇六 |

今此京都市の統計を京都府の統計と比較對照するに商業及び工業に於

ては府下總有業者の半數以上は單に男子に於てのみならず女子に於ても都會たる京都市之れを占む。是れ即ち近世都市の隆々たる膨脹が商工業の原因たり結果たる所以を表證するものと云ひ得る所以なり。然りと雖も農業的有業者に至りては都鄙に於ける差之れを獨逸等に比し遙かに夥多にして殆んど月鼈の大差あるを見る。加之婦人有業者全体に於ても市の僅かに其婦人總体の一割強に相當するに過ぎざるも府下としては殆んど四割を占む是れ即ち吾國の有業婦人は比較的、地方に多きを證明するものにして而して、其地方に多きは我國の農業が婦人の從業に適合する、小農組織なるが故なり。

以上は單に京都府及び京都市に於ける婦人職業の大畧を述べしに過ぎず。今左に吾國の婦人職業を農業、商業、工業、下婢、公務及自山業の五者に分ちて之れを詳論せん。

第一章 農業界に於ける婦人職業狀態

既に前篇に於て述べたるが如く吾國維新以前は農を本とせる國なりしのみならず明治初年に於ても尙ほ未だ然りしなり。然るに晩近に至り商工業の急激なる勃興に伴ふて都市の膨脹著しく獨逸に於ける該たる所謂 *Zeit nach der Stadt* 即ち農民の都市移住は吾國に於ても亦た大勢如何ともすること能はざるに至れり。試に晩近重要なる都市人口が如何に急激の勢を以て増加しつゝあるかを見よ。

| 年次 | 東 京 | 大 阪 | 京 都 | 名古屋 | 神 戸 | 横 濱 |
|----|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 卅一 | 一、四〇、三三 | 八三、六五 | 三三、二九 | 二四、四四 | 三五、六五 | 一五、七五 |
| 卅二 | 一、八八、五五 | 九五、四五 | 三〇、五六 | 二八、五九 | 三五、〇三 | 一六、〇五 |
| 卅三 | 一、三六、〇八 | 四三、〇五 | 三〇、五九 | 二四、七五 | 二〇、九六 | 一五、〇三 |
| 卅四 | 一、三九、六四 | 四六、七二 | 二九、五二 | 二四、七五 | 二〇、九六 | 一五、〇三 |
| 卅五 | 一、三六、八〇 | 四三、六九 | 二九、五七 | 二四、七五 | 二〇、九六 | 一五、〇三 |
| 卅六 | 一、三三、二二 | 四二、九二 | 二七、七〇 | 二四、七五 | 二〇、九六 | 一五、〇三 |
| 卅七 | 一、三六、九〇 | 四七、一四 | 二八、〇二 | 二五、八五 | 二六、二〇 | 一七、二五 |
| 卅八 | 一、三三、三三 | 四五、三五 | 二七、七五 | 二五、八五 | 二六、二〇 | 一七、二五 |
| 卅九 | 一、三三、三三 | 四五、三五 | 二七、七五 | 二五、八五 | 二六、二〇 | 一七、二五 |

右は繁を避け僅かに本邦五大市の統計を挙げたるに過ぎず。而して此等都市人口中時に附近町村の合併によりて増加せるものある可しと雖も然かも此等都市の人口が普通全國の人口増加率(二、六七乃至三、一三)を超へて如何に甚だしく膨脹せるやを窺ふに足る可し。都市の膨脹夫れ如斯於是か維新以前に於ては本邦國民の十中八九を占めし農民も既に明治十三年には六割とあり全十七年には專業五割二歩三厘六毛となり而して近年に至りては辛ふじて過半数を占むるに過ぎずと云ふ。

然りと雖も全國の戸數を八百萬とし實際は是れより多きも其半数を以て農業を營むものとするも實に四百萬戸の多きに達す。前節に於て余輩が吾國農業界に於て比較的多くの有業婦人ある可しとは此概數を基礎とするものなり。蓋し吾國の農業は前賦述べたるが如く有名なる小農組織

なるの結果婦人の従業容易にして農家の妻女たる者多くは晨に星を戴て出で夕に月を踏んで歸り粒々辛苦の汗を絞ること殆んど男子と差異なきなり。素より其勞働の效果に至りては遠く男子に及ばずと雖も勞働の效果の男子に及ばざるは是れ一般婦人職業の常態にして獨り農業的有業婦人に於てのみ然るにあらざるなり。故に小作及自作農に於ては一家一人の有業婦人ありと見て大差なかる可く今日全國農民の戸数を四百萬とし其中百萬を以て家族の勞働を要せざる農民とするも實に農業的有業婦人の數三百萬人の多きに達す。若し夫れ京都府下の統計を基礎とし之れによりて全國の農業的有業婦人の數を推測する時は少くも五百萬人に達す可し。且つ中流以下の農家の下婢は名こそ下婢なれども其實多くは直接に農業に従事するものにして都會に於ける下婢と其趣を異にす。由是觀之吾國の農業界に於て少くも四百萬人の有業婦人の存在することは余輩の確信して疑はざる所にして亦た以て吾國農業界が有業婦人の寡なからざるを知るに足る可し。

概近に至り或る經濟學者の所謂富に關する吾人の困難が土地より之れを獲ることに存せずして其分配に存すと云へるが如く吾國現時の農業社會に於ても亦た此傾向を免るゝこと能はずして土地の兼併は逐日甚だしく大地主は増加して小地主は減少し自作農は變じて小作農と化す。即ち小作農は大地主の増加と自作農の化身との兩方面の原因より益其數を増加しつつあるなり。乞ふ試に十九年と二十四年との間に起れる變遷の状を見よ。

(註最近の調査を得んと勉めたれども遂に發見すること能はず。已むを得ず左表を掲ぐ。又た左表は兼業をも包含するものゝ如し。)

| | 十 九 年 | 廿 四 年 |
|-----|------------|------------|
| 自 作 | 三、一〇一、〇七五戸 | 三、〇〇五、六九二戸 |
| 小 作 | 二、三九六、九六五戸 | 二、四八三、九三八戸 |

合計

五、五一八、〇四〇戸

五、四八九、三六〇戸

即ち全体に於ては吾國の農業も社會の大勢に従ひ減少の傾向を免れざるなり。而して其内容を觀察する時は自作農は九萬五千三百八十三戸の減少をなせしと雖も小作農は反て八萬六千九百七十三戸の増加をなせり而して此傾向は近時に於て益甚だしきものあるなり。如斯一般農家の戸數減少に拘らず小作農の増加せるは是れ吾國農民の社會上の地位の益低落しつゝあるの証にして從て又間接に農業的有業婦人の地位の低落を表証するものならずんばあらず。近時農民の婦女が去つて都市の商工業に趨馳するの原因素より一つにして足らずと雖も此の農民婦女の地位の低落與て重大の關係あること敢て蝶々を待たざるなり。要するに吾國近時に於ける都市の膨脹は一般農民の數を減少せしめつゝあると全時に農業的有業婦人の數を減少せしめつゝあるは又疑ふ可からざる事實なり。

斯の如く吾國農民の數は次第に減少し從て農業的有業婦人の數も亦次

第に減少しつゝある可しと雖も然も尙ほ吾國の農業は國家經濟上并に國民經濟上重要な地位を占むるは疑ふ可からず。世人動もすれば吾國は將來商工業を以て立たざる可らずとて農業を冷視す。素より問題或は政策として研究する場合に於ては商業に關する諸問題或は政策は之れを農業界の夫れに比すれば遙かに重要な可しと雖も問題或は政策の重不重と實際界に於ける重不重とは決して之れを混同すべからざるなり。問題或は政策として急なるが爲め商工業に趨馳して農業を忘るゝが如きは迂濶の甚だしきものなり。現に國家經濟并に國民經濟に關する重要な度に至りては尙ほ單に農業を以て先とせざる可らざるなり。而して斯の如く吾國に於て尙ほ未だ農業の重要な裏面に於て吾人は又た農業的有業婦人の國家社會に對する貢獻の大なる所以を感せずんばあらざるなり。

然り余輩が吾國農業婦人に對して特に感謝して措く能はざる所のもの尙ほ他に是れあるなり。他なし吾國農業婦人は單に上述の如く純粹なる

農業者として農業上に重要な地位を占むるのみならず其副産業として養蠶、つゝある所の養蠶、并に繅絲製造は、實に從來に於てのみならず將來に於ても吾が富國の最大源泉なればなり。想ふに近時吾國農民に對する各種の副産業は官民相方よりの保護奨励によりて大に發達しつゝあるなり而して其副産業は素より男女一般農民に對するものなりと雖も其實を穿てば主として婦女子に對するものと云ふも敢て不可なきなり。視よ養蠶と云ひ麥科真田と云ひ花蒔製造と云ひ將た養鶏と云ひ養兔と云ひ殆んど皆然らざるはなきにあらずや。特に養蠶及繅絲製造に於て然りとす、今左に養蠶及繅絲製造に關して少しく述ぶる所ある可し。

(繅絲製造業は寧ろ工業として後款に於て述ぶること正當なれども其養蠶と密接なる關係を有するの故を以て此所に於て併述するなり) 現今如何に多くの婦女子が養蠶及び繅絲製造に従事しつゝあるかは素より之れ等に關する統計なきが故に之れを確知するに由なしと雖も或る

書籍には繅絲製造に従事しつゝある職工のみにて拾萬人ありと云ふも其何年の統計なるや又果して真なるや否は疑はし。其之れ等兩産業に従事しつゝある戸數を見れば峇ぼ其有業婦人の概數を推知するに難からざるなり。

| 調査の年 | 養蠶戸數 | 調査の年 | 繅絲製造戸數 |
|------|-----------|------|---------|
| 二十九年 | 一、三〇六、二五三 | 二十七年 | 三三一、八五七 |
| 三十年 | 一、三一二、六七五 | 廿八年 | 三八三、七六四 |
| 卅一年 | 一、三一四、一二九 | 廿九年 | 四〇四、六九一 |
| 卅二年 | 一、三五六、八二三 | 卅年 | 四一七、七二三 |
| 卅三年 | 一、四四〇、八三一 | 卅一年 | 四〇九、九〇一 |
| 卅四年 | 一、四七六、二二七 | 卅二年 | 四一〇、四七八 |
| 卅五年 | 一、四三四、八三七 | 卅三年 | 四二四、九八八 |
| 卅六年 | 不詳 | 卅四年 | 四一八、〇六五 |

卅七年 一、四七四、五八七

卅五年 四一〇、六三〇

卅六年 三九八、九二六

上表によりて見るときは養蠶戸数は實に百五十萬の多きに達す。假りに一戸一人の婦女子が養蠶業に従事するとするも尙ほ百五十萬人の婦女子が副業として養蠶業に従事しつゝある割合なり。加之其戸数の如きも廿九年と卅七年との僅々八年間に一割三步の増加をなせり。而して其産額に至りては増加の割合一層甚だしく二十七年に於て繭産額百七十九萬七千八百四十二石なりしもの卅六年には二百五十八萬七千〇八十二石に増加せり。素より其産額は米穀の産額の如く天候其他自然的状況により左右せらるゝが故に年により豊凶あるを免れざる所なりと雖も之れを外にして尙且つ一般に増加しつゝあるは累年の統計に徴して明らかなる所なり。

絹絲製造は從來主として手繰なりしも近來漸く機械の使用著しく二十

七年に機械數六千九百二十三臺なりしも三十三年には七千八百六十五臺となり而して晩近に至りて益其數を増加せりと云ふ。故に戸數に於ては其増加甚だしからずと雖も其産額に至りては増加の度實に大なり。即ち二十七年に於て生糸産額百二十九萬六千七百八十三貫ありしもの卅六年には百八十四萬四千三百九十九貫に増加せり。

繭産業及び絹絲製業の如斯隆盛なるを見更に進んで生糸が吾外國貿易上如何に重要ある地位を占むるかを見れば其裏面に於て吾人は益農業婦人の功勞を多とせざる可らざるなり。

最後に余輩は農業婦人の副業として營まれつゝある職業につき尙ほ一つの云ふ可きことあり。即ち各種の織物の中農業婦人の副業として生産せられつゝあるもの少なからざること是れなり。例へば各地に於て産出せられつゝある緋の如き或は又た桐生足利及び群馬縣下より産出せらるゝ絹織物の如き是れ等の織物は現今尙ほ未だ大企業の組織を以て生産せ

られずして多く農業婦人の副業として生産せられつゝあることは世人の熟知する所なり。

山是觀之吾國農業婦人の國民經濟上に於ける地位が如何に緊要なるかを知らるに難からざるあり。彼の横井農學博士が吾國に於て農工を共職とする一種の農本主義を主張するも亦た決して故なきにあらざるなり。想ふに吾國の農業は一般に頗る集約的 (Intensive) なるが故に其勞働力の運用如何によりて損益を蒙ること又決して僅少にあらざるのみならず彼の春秋二期の收穫時以外の餘暇の利用如何の如きは國民經濟上頗る重要な件なり。如斯勞働力の餘裕を利用して益農業婦人の副業の發展を企圖するが如きは單に農民其物の社會上の地位を上進せしむるのみならず社會國家が直接に利益せらるゝ所のもの亦決して僅少にあらざるなり。故に政府當局も亦た之れが保護獎勵に巨萬の資を投じつゝあるなり。然りと雖も其副業てふ聲の大なるに比し其實の擧らざるは抑も何に基くもの

なるか素より農民の頑強なる保守的性質の之れが障害をなすことの大なるは敢て多言を要せずと雖も又た他方より見れば從來の當局者が徒に副業の弊に眩し、淺薄なる見解と狹隘なる經驗とに罪を歸せざる可らざるなり。例へば徒に養蠶事業を獎勵して其需要供給の實際を忘却し爲めに一頓挫を來せるが如き或は又た徒に養蠶の有利なるを鼓吹して以て地方に より適不適あるを顧みざりしが如きは顯著なる實例とす。想ふに養蠶の業有利なりと雖も土地によりては反て不利なるあり。養蠶の事有利なるが如しと雖も尙ほ未だ兎肉の嗜好世人に普からざるを如何せん。之れを是れ知らずして徒に副業の獎勵をなすも何んぞ夫れ益せんや。先年余が郷里の民一時當局の養蠶熱に雷同して米田を變じて桑田となし以て養蠶の業に従ふ。後數年にして養蠶事業の到底收支償はざるを見て遂に之れを止め桑田再び覆されて米田に歸れり。是れ即ち養蠶の業と雖も地方に よりて適不適あるの結果に外ならずや。又た嘗て養蠶事業の獎勵さるゝ

や農家の婦女擧て之を飼養す。然るに其養成したる兎を賣らんとするに當り徒に供給者多くして之れが需要者殆んどあるなし。是に於てか多くの時間と費用とを要したる養兎は忽ち之れを飼養するさへ不可能となり甚だしきに至りては遂に養兎變じて山兎となりし例少からざりしなり。故に將來農業婦人の副業を奨励せんとするに當りては一方に於て農民婦女子の思想開發に勉むると共に他方に於ては今少しく當局の注意を望んで止まざるなり。

第二款 工業界に於ける婦人職業狀態

前に述べたるが如く近來吾國に於ける商工業特に工業の發達は都市膨脹をして激甚ならしめ農業婦人は好んで工業界に趨馳し從來往々地方に於て過剩の煩に苦みし農業婦人も今は全く之に反し却て下婢の缺乏を訴ふるに至れり。豈に管に地方に於てのみならず大小の都會に於て悉く皆然らざるはなきなり。是れ工業の勃興特に分業の發達は一般婦女子の職

業的範圍を増加せしめたる結果にして先きに農業界に於て重きをなしたる吾國の婦女子は近來漸く工業界に其據を移さんとしつゝあるなり。試みに最近に於ける吾國工業中比較的多く婦女子の従事しつゝあるもの五種の女工として従業しつゝあるものゝ數を見よ。(三十六年調査)

| 品目 | 男 | 女 | 計 |
|------|---------|---------|-----------|
| 綿絲紡績 | 一三、一六〇 | 五七、一三六 | 七〇、二九六 |
| 各種織物 | 二七、〇四八 | 六一一、三一一 | 六三八、三五八 |
| 麥稈眞田 | 三五、一〇〇 | 一三一、〇三九 | 一六六、一三九 |
| 製紙 | 七六、〇二七 | 九六、二八七 | 一七二、三一四 |
| 燐寸 | 六、二九四 | 二四、五九二 | 二〇、八八六 |
| 合計 | 二五七、六二九 | 九二〇、三六四 | 一、〇六七、九九三 |

即ち單に以上五種に従事する女工のみを以てするも實に九十一萬餘の多きに達す。而して之れ等の業に従事しつゝある職工全体の八割五歩は

婦女子之れを占め僅に一割五分のみ男子有業者あるに過ぎず。尙ほ更に之れ等の産業に従事しつゝある女工の晩近に於ける増減の状を見るに大畧下の如し。

| 調査年 | 品目 | 紡績 | 織物 | 製紙 | 燐寸 | 眞田 |
|-----|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 廿八年 | | 三、二四 | 九五、〇六 | 不詳 | 二四、五四 | 不詳 |
| 卅年 | | 五、(五) | 九七、二〇 | 不詳 | 二六、七七 | 不詳 |
| 卅二年 | | 七、五四 | 六八、八〇 | 六、九七 | 二四、〇六 | 二六、三〇 |
| 卅四年 | | 四、五四 | 七四、九四 | 二九、三六 | 一六、五四 | 五、七五 |
| 卅六年 | | 五、二六 | 六二、三〇 | 六、三六 | 一四、五三 | 二二、〇九 |

上表によりて見る時は紡績業に於ては六割六歩製紙業に於ては卅二年と卅六年との間に一割麥和眞田は實に七十二割の大増加をなせり。然るに織物等に於ては反て三十七萬餘人の大減少をなし、紡績及び製紙業に於

ける増加は此織物業に於ける大減少を補ふに足らざるなり。織物業に於ける有業婦人の如斯減少は一見斯業の晩近に於ける隆盛と相對して奇怪の念なきにあらざれども是れ決して然らざるなり。

思ふに從來殆んど婦女子の副業として營まれたる機械業は近時工業界に於ける工場的工業の勃興せる結果多く専門的となれり。従て數字上に於ては大に減少したるが如しと雖も其實質上に於ては反て増加したるものと云ふて敢て不可なきあり。余輩は今左に試に近時吾國工業界に如何に多く原動力使用の工場が増加せしかを知らしめんが爲め次の統計表を掲ぐ。

| 廿七年 | 卅年 | 卅二年 | 卅三年 | 卅四年 | 卅五年 | 卅六年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一、〇九八 | 一、六七一 | 一、八六九 | 二、〇八四 | 二、二七八 | 二、四四九 | 二、六三〇 |

即ち其増加は年一年累進し廿七年と卅六年との間に於て實に二倍半の大増加をなせり。嗚呼吾國工業界の發展の狀單に此の現象を見ても明か

なるなり、而して如斯工場的工業の大勃興は茲に又た所謂工場的職工特に女工の数を著しく増加せしめつゝあるなり。

| 調査年 | 男 | 子 | 女 | 子 | 計 |
|-----|---------|---|---------|---|---------|
| 廿九年 | 一六八、二八六 | | 二四〇、二三四 | | 四〇八、五二〇 |
| 卅一年 | 一八二、七九二 | | 二五四、四六二 | | 四三七、二五四 |
| 卅二年 | 一七七、六三二 | | 二三四、五七三 | | 四一二、二〇五 |
| 卅三年 | 一五八、七九三 | | 二六四、三七八 | | 四二二、一七一 |
| 卅四年 | 一六七、九〇四 | | 二五七、三〇七 | | 四二四、二一九 |
| 卅五年 | 一八五、六二一 | | 二六五、九〇九 | | 四五一、五三〇 |
| 卅六年 | 一八二、四〇四 | | 三〇一、四三五 | | 四八三、八三九 |

由是觀之吾國の工場的職工の六割二歩三厘は實に女性の占むる所となり居りて男子は僅かに三割七分七厘に相當するに過ぎず。如斯一國に於

て女工の男工より多きが如きは歐米諸國に於て多く其例を見ざる所にし
て即ち是れ吾國の工業が特殊なる性質を有する表號たらずんばあらざる
なり。且つ其増加の度も絶体的にも又た關係的にも男子より一層大なる
なり。即ち男子は僅かに六分四厘の増加なるに反し女子は實に二割五分
四厘の増加をなせり。又た以て吾國の大工業が如何に多く婦人の手を
借りつゝあるかを知るに足る可し。加之各種工業は過去に於てのみなら
ず將來に於ても多く家内工業或は手工業を去て益工場的工業隆盛ならん
とす。是れ管に輓近に於ける工業界の大勢なるのみならず又た貨物の生
産上より見る時は多くの場合に於て此工場的工業を以て得策となすによ
る。或る人の調査せる所なりと云ふを聞くに彼の近時長足の進歩をさせ
る羽二重織の産地として有名なる福井縣は其過去の歴史に於ては外國輸
出貿易上大なる勢力を有せしも如何せん同縣下に於ける羽二重は主とし
て舊式の手機を以て織らるゝものなるが故に其生産額と價額とに於て意

の如くならず。然るに新潟縣及び山形縣は敢て羽二重織業に於て名あざりしも今や盛んに新式の機械を採用し比較的大なる工場を設くるに至り其産額大に増加せるのみならず其品質等に於ても頗る外國輸出に適し反て近き將來に於て福井縣を凌がんとするの勢ありと。工業界の大勢夫れ上述せるが如し。故に其將來に於て益工場的工業の増加す可きは火を見るよりも明らかなり。

今更に一步を進めて之れ等多くの女工が如何なる種類の工業に従事しつゝあるかを見るに左の如し。(廿六年度)

| 工業種類 | 男 | 子 | 女 | 子 | 合 | 計 |
|-------|--------|---|---------|---|---------|---|
| 纖維工場 | 三〇、八〇三 | | 二四〇、一七一 | | 二七〇、九四七 | |
| 機械工場 | 三二、八六二 | | 一、三六一 | | 三四、二二三 | |
| 化學工場 | 二九、九三七 | | 二〇、〇五一 | | 四九、九八八 | |
| 飲食物工場 | 一八、三一一 | | 一七、六〇九 | | 三五、九二〇 | |

雜工場

| | | | |
|---|---------|---------|---------|
| 計 | 二〇、八九二 | 一三、三三〇 | 三四、二二三 |
| | 一八二、四〇四 | 三〇一、四三五 | 四八三、八三九 |

即ち纖維工場以外の工業に於て女子は男子に及ばずと雖も工場的職工の大部分を占むる纖維工場に於ては女子は實に職工總數の八割八分九厘を占む。是れ吾國の工場的職工が全体に於て男子よりも女子の方多數を占むる最大の原因たらずんばあらざるなり。如斯女工の多きは一方より見れば欣ぶべきことなりと雖も又た他方より觀察するときは大に憂慮に堪へざるものあり。想ふに一般婦女子特に吾國婦女子の美德として賞揚せらるゝ所の忍耐力は往々にして極端に走りて其度を失ひ時に盲従となり絶對的屈服となり雇主の婦女子に對する其男子に於けるよりも一層悲惨を極むるものあるなり。(是れ等のことに關しては後章婦人職業の得失を論ずるに當りて詳述す可し) 歐米の婦女は我國の婦女よりも穩順ならざるも尙且つ之れを男子に比すれば雇主の不理非道に服すること多し。

さればこそ歐米各國に於ては法律を以て之れ等工場的な女工の保護を怠らざるなり、今其二三歐洲諸國に於ける實例を見ん。

英國に於ては未成年の女工は未成年の男工と同じく労働時間就職年齢工場に於ける修學の方法及其労働種を規定し、成年女工に對しては纖維的工場と非纖維的工場とによりて労働時間に長短の差を設け前者は一日十時間一週五十六時間を限り後者は一日十時間半一週六十時間に限り有兒女工及懷妊女工に對しては特別の制限を設けたり、且つ一般に徹夜業を禁止し例外として兒童工(十二歳より十四歳迄)及び幼年工(十四歳より十六歳迄)を使用せざる工場に於ては十一時迄の夜業を許せり、佛國に於ては幼年の男女工(十六歳より十八歳迄)の労働時間は少くも一時間の休憩時間を合して一日十一時間成年女工は同上の條件を以て一日十一時間とす、徹夜業は之れを禁止し労働時間は午前五時より午後九時迄とせり、唯例外として季節により一個年に四十日間交替徹夜業

を許せり、其他妊婦に對して特別の制限を設くること英國と同じ、

更に一千八百九十年八月十五日より二十九日に至る十五日間伯林に於て開かれたる國際労働者保護會議に於て議定されたる條項中第五款女子の労働に關する規定を見るに其主要なるもの次の如し、

- (一) 十六歳より二十一歳に至るまでの處女有夫婦女は夜間の労働を禁ず、
- (二) 一日の労働時間は十一時間を越ゆ可らず、又た少くも一時間半の休憩を與ふ可し、
- (三) 或る種の工業の爲め例外を許すこと、
- (四) 殊に不健康又は危険なる使役に對しては制限を豫定すること、
- (五) 妊婦は分娩後四週間を経るにあらざれば再び労働に就くことを許さず。

と而して吾國に於ける工場法案を見るに

其第五十六歳未満の男女又は滿十六歳以上の女子は午後十時より午前

四時迄の間工場に使用せざること、但し交替するときは徹夜業は之れを許す。

其第六十六歳未満の男女又は満十六歳以上の女子には勅令を以て十二時間以上の就業時間を制限することとし職業の種類を二種に分ち第一種工場は十四時間第二種工場は十五時間の労働時間を定む。一般に女子労働者特に工業界に於ける女工保護者の爲めに設けられたる法規大畧上述せるが如し、而して現時に於ける吾國の工場法案は頗る不完全なるを免れず故に近時新に草案成り將に其實行の期近きにあり、余輩は國家社會の爲め一日も早く其實現されんことを渴望して止まざるなり。

然りと雖も之れ等公の強力による保護如何に周到なればとて未だ之れのみを以て工場的女工の將來に付きて満足す可きものにあらざるなり、宜しく他に彼れ等自營の方法による救済策なかる可らず、而して此自營

の策としては余は男子に於けるが如く婦人に於ても所謂婦人の職工組合なるものゝ組織さるゝことを希望して止まざるなり、蓋し婦人の職工組合(Trade Union for working Women)なるものは工場的婦人の社會的地位の維持増進に對して頗る重要なる一手段たればなり、素より婦人に於ては男子と異り婚姻に對する希望並に婚姻後同一職業を繼續すること困難なる等の事情あるが故に男子の職工組合に於けるが如く其組織容易ならざるのみならず假令設立さるゝも之れが持續困難なるは云ふ迄もなしと雖も之れを組織維持するの困難は之れを爲さざるによりて彼れ等並に社會國家が受くる損害の大なるに如かざるなり、さればこそ各國は共に大に其の設立を奨励しつゝあり。

元來英國は十九世紀に於ける工業の先進國たりしが故に此種の活動に於ても亦た其元祖たるのみならず現時に於ても之れを他國に比し最も盛んに行はれつゝあるなり、彼の現時迄持續されつゝある所の (Edinburgh

Upholstery Sewers Society の如きは一千八百七十二年の設立に掛るものなり
 當時エンマ・バターリン嬢出で、大に婦人の職工組合の組織發達に盡瘁し
 倫敦市に於ける Womens Protective and Provident League(即ち現時の Womens Trade
 Union League)ブリッセル市に於ける National Union For Working Women 等は主と
 して嬢の訓示の下に設立されしものなり。始め嬢の婦人職工組合を組織
 するや男子の職業を阻害するものとして男子の猜忌的反抗ありしと雖も
 斯の如きは唯だ一時の現象として葬られしのみならず後には婦人の職工
 組合も亦た男子に於けるが如く緊要なるものとして大に保護奨励せらる
 るに至れり。而して今も同國に於ける一千八百九十八年の調査を見るに
 男女組合の數總計一千二百六十七にして内百四十は女子の組合員を有す
 る組合なり。其の組合員數總計百六十四萬四千五百九十人の内婦人員數
 十一萬六千人あり。想ふに其始めに當りては男工混合の組合にして單に
 婦人のみにより成る組合は主として最近の發達に係るものなり。即ち同

年に於て婦人のみより成る組合數二十九にして其人員七千八百餘人あり
 其重なるものは The Womens Industrial Council, The Womens Trade Union League,
 The Glasgow Council For Womens Trade, The Manchester Womens Trade Union Contil
 の四者なりと云ふ唯だ夫れ之れが組織の内容に至りては煩に過ぐるが故
 に茲に之れを畧す。

吾國近時各種工業の勃興に伴ふ工場的女工の増加著しきこと既に前述
 せり。されば其強制的保護によるの外此自營の策に出づる救済策の實施
 は吾人の渴望して止まざる所なり。

第三章 商業界に於ける婦人職業

吾國古來士農工商と稱し商は末利を計るものありとして四民の最下位
 に列せらる。蓋し又た封建の世階級制度の下に於ては不得已に出でしな
 る可し。夫れ各種産業の發達は個人組織の下にあらざれば望む可らず。
 自由生産の時代にあらざれば願ふ能はざるなり。特に商業に於て然りと

す。室町時代に於て稍見る可きものありし商業界に於ける婦女子の活動も徳川時代の干渉政界の下に至りて殆んど全く萎靡して振はず。世は終に明治の自由生産の時代となり内外商業の勃興著しきに拘はらず婦人の商業界に於ける活動は敢て顯著なるものなきなり。單に吾國に於てのみならず歐米諸國に於ても亦た一般に農業工業等に比較する時は其有業者の數到底男子と同日の論にあらざるなり。即獨逸に於ては工業者の百五十二萬以上あるに對して五十七萬餘あるに過ぎず。米國に於ても工業界の百〇二萬以上なるに對して二十二萬餘人あるのみ。特に英國に至りては更に一層甚だしく工業の百八十四萬餘人あるに對し僅々二萬五千餘人の商業婦人あるに過ぎず。想ふに商業は之れを農業及び工業に比するに貨物を生産するにも又加工するにもあらざるが故に其勢力を要すると農工よりも頗る僅少なるのみならず大規模に於けるよりも寧ろ小規模に於けるもの多く從て其從業者の如きも農工二業に比し寡少なるは亦た自然

の勢なり。視よ近來商業界に雄飛せんとする獨逸に於ても其有業者之れを農業に比すれば約四分の一、工業に比するも三分の一弱に過ぎず。米國に於ても農業界の九百萬、工業界の五百萬の有業者あるに對し商業界の有業者三百三十萬あるに過ぎず。更に現時全世界を其自國の市場とせる英國に於てすら工業界の七百三十三萬に對し僅々百三十八萬の商業的有業者あるに過ぎずして其衰退極度に達せりと稱せらるゝ農業界の有業者と相比敵し得るに過ぎず。

以上述ぶる所により一般に商業的有業者が農工兩業に比し僅少なる所以并に其事實を知る可し。更に一步を進めて考ふるに同じく商業界に於ても男子有業者に比し婦人有業者の數比較的僅少なるを見る。其然る所以のものは何ぞや。蓋し商人たる者は他業に比し機を觀るに敏ならざる可らず。利を圖るに果決ならざる可らず。且つ時としては東奔西馳。臨機應變。以て事を處せざる可らず。然るに如斯は男子にありては寧ろ其長所

と。する。に。反。し。婦。女。子。に。あ。り。て。は。反。て。短。所。と。す。る。所。な。り。是。れ。商。業。界。に。於。て。は。絶。体。的。に。も。又。た。相。對。的。に。も。男。子。有。業。者。に。比。し。婦。人。有。業。者。少。き。最。大。の。原。因。た。ら。ず。ん。ば。あ。ら。ず。

然りと雖も又た之れを他方より觀察するに前にも述べたるが如く商業は他業に比し体力を用ふるまど少く且つ多くは小規模特に所謂家族營業として行はるゝもの亦た少なからざるが故に一家の婦女にして其父又は夫の活動を補助するもの決して僅少にあらざる可し。特に店頭に坐して顧客花主に對する事務に於ては男子よりも寧ろ婦人に適切なる場合少しとせざるなり。吾國に於ても假令其營業主は男子たるに拘らず其婦人たる者の之れに參與することの著しきは世人の熟知する所なり。故に若し之れ等の婦女子を以て一種の有業者と見做し得べくんば商業的婦人亦決して僅少にあらざるなり。

近時吾國に於ても鐵道會社郵便電信局電話交換局銀行及び汽船會社等

に於て往々婦女子を採用するものありと。然も其數に至りては未だ以て多しと云ふ可らざるなり。然りと雖も逐日其數の増加しつゝあるは明らかなる事實なり。例へば電話交換事務に従事しつゝある婦女子は昨年の統計によれば東京市中のみに於ても七百九十二名の多きに達せりと云ふ(郵便電信電話事務に従事しつゝある婦人は之れを公務并に自由業者の中に入るゝを至當とす)又た近來個人的豪商にして其婦女子を店員に雇入るゝもの往々是れあるに至れり。されど現今のみならず將來と雖も恐らく商業界に於ける有業婦人は到底農工二業に及ぶの期なかる可し。

第四款 家 婢

一國は君主及び其姻族のみを以て成立す可らざるが如く一家も亦た必ずしも其家主并に縁屬のみを以て其生活を全うする能はざるなり。故に家として婢女を使用すること益し又た國に臣隷を要するの類か。素より婢僕なるものは之れを國民經濟上より見る時は決して稱賛すべきものに

あらずと雖も現時中等以上の資産を有する家に婢女を雇ふは必ずしも其家族の怠慢贅澤に基くものにあらずして家計上社交上將た兒女訓育上止むを得ざるに出づるもの多し。従て極端なる宗教家又は道徳家の稱ふるが如く絶体的に排斥忌避す可きものにあらざるなり。

然らば則ち現時吾國に於て如何に多くの婦女子が家婢として他家に生活しつゝあるか素より之れ等に關する統計皆無なるが故に殆んど之れを知るに由なしと雖も其數に於ては之れを歐米諸國に比し決して少なからざる可し。蓋し婢僕の蓄有を以て一種の虚榮となすは是れ東洋幾百年來の遺風にして支那に於ける奴婢三萬人とは是れ絶好の典型にして而して因襲の久しき今尙は餘風の衰へざるあればなり。想ふに家婢の業たる多くは難事あるにあらず其執る可き務は皆是れ婦人須知の業然も其業たる女工に於けるが如く單一變化なき者にあらず。昨は洒掃洗濯今は送迎應待時としては嬉笑の中隨伴の間に其日を銷遣す。若し夫れ主家に方正の

婦女あらば以て座作進退の禮を學ぶ可く或は裁縫學術其意の嚮ふ所に隨うて之れを修むるの機會あるなり。加之女工は道義心を失墜爲易きに反して家婢は之れを涵養爲易く女工は身体を損傷爲易きに反して家婢は此災厄を免る。即ち家婢の状態を女工に比すれば優るあるも決して劣ることなきなり。然も世の婦女相率ゐて工業界に走り都鄙共に家婢の缺乏を來す所以のものは何ぞや。其原因素より一にして足らずと雖も其主要なるもの三つあり。第一吾國工業の勃興に基き女工の需用多きこと。第二婦女子の自由放樂を慕ふ精神大なる事。第三女工としての勞銀多少家婢としての勞銀より有利なること是れなり。

以上三つの原因中第一につきては従前屢説明せし所あるのみならず後章に於て詳述する所あるべきが故に茲には其説明を省畧す可し。第二の原因につきては少しく論述するの要あり。想ふに封建時代にありては君臣主従の關係は是れ實に其社會制度の基礎をなせしものにして而して其

關係や物質的にあらずして精神的なり。秩祿報償を給ふが故に臣下たり従者たるにあらずして臣下たり従者たるが故に秩祿報償を給ふなり。換言すれば秩祿報償を目的として臣下たり家従たるにあらずして之れ等物質的關係は全く君臣たり主従たる特別なる關係の従たる添附物に外ならざりしなり。従て秩祿報償は單に君主又は家主たる者の一方の意思のみによりて確定し臣民又は家従たる者は殆んど與り知る所にあらざるなり社會一般の状態既に如斯。故に家主たる者と家婢たる者の間に於ても其兩者を連結するものは主として心的要素なりしなり。視よ忠僕烈婢なる逸話は之れ等封建時代の歴史を飾る錦繡の一たるにあらずや。然るに封建制度の破壊と共に社會の階級制度は蕩然地を拂ひ四民平等を以て社會制度の基礎となすに及び個人の自由思想俄に煥發し爲めに従來主従の關係を堅結せし心的要素は次第に滅絶して今や殆んど物質的又は經濟的關係のみとなれり。即ち先には報償の有無に拘らす尙も祖先の恩澤に浴せ

し者の後裔婦女は好んで主家に隷從せしと雖も今や然らず唯是れ報償の有利なる所に従うて趨馳す。是れ即ち天下の婦女子が等しく報償を目的とするに於ては晝夜主婦たる者の指揮監督の下に行動せざる可らざる所を去つて比較的自由なる工場に赴く所以の一ならずんばあらず。

第三の原因に至りては頗る之れを明かにするに苦しむ。蓋し一方に於て女工の職業は殆んど千差萬別なると共に他方に於て家婢の勞銀も地方により都會によりて異り其平均を得ること困難なればなり。然りと雖も一般に世人は女工としての勞銀家婢としての勞銀よりも有利なりと云ふ故に余は姑く之れ等世人の言に従へるのみ。若し果して世人の言眞なりとすれば利のある所に走るは是れ人類の常態なれば一般婦女子が家婢の業を捨て、女工の業に赴くも亦た宜なりと云ふ可し。

以上三種の原因は其主なるものなりと雖も尙ほ他に工場が種々の巧妙なる方法口實を以て婦女子を誘引する所以のものも少なからず。想ふに

各種工場の雇主は日に月に歐米諸國の措置設備に模倣し其職工の待遇等の如きも次第に改善して大に昔時と其趣を異にせるものあり。例へば賃金支拂法、恩給金法、保護法其他労働時間制限等の如き枚舉に遑あらず。之れに反して一家の雇主は多くは依然として昔日の舊風遺俗に則りて家婢を待遇せんとす。是れ商工業の勃興と共に都會に家婢の供給不足を告ぐる一原因ならずんばあらず。

近來伯林市に於て家婢報酬及び保護會なるもの設立せられ其基本金千八百九十五年には百萬マルクに達せりと云ふ。其他同市には家婢病院家婢保險等の制度あり而して其資金及び保險金の如きも主として雇主の支出にかより一ヶ年一人六マルクを以て定額とし、一千八百九十六年には三萬五千百人の雇主が四萬一千九百四十四人の被雇人に對して二十一萬六千マルクの金額を拂込みたりと。又以て此種の措置の完備せるを知るに足る可し。

要之婦女子の家婢となるは其天稟の性に悖らざるのみならず貧家の婦女をして安全に婦人に恰適せる業務藝能を修練せしむ可き捷徑たらずんばあらず。故に余は雇主も被雇人も周旋人も將た全社會も此點に留意して力めて便方法法を講せんことを渴望して止まざるあり。近來吾國に於て往々下婢たる者に要す可き技能を養成するの目的にて下婢教育なるものを口にするに至れり。想ふに中流以上の家庭に於ける下婢は直接に其主家の子女に接近するものなるが故に不知の裡に子女たる者に善不善の感化を及ぼす可きは疑を入れざるなり。然るに社會風紀の頹敗と共に一家に於ける下婢なるもの亦た昔日の如くならず往々にして彼れ等の奸策により子女の潔白を汚さるゝものあるなり。故に下婢教育なるものを起し一方に於て彼れ等の人格を高むると共に他方に於て下婢たる者の必要なる藝能を授くるは是れ頗る緊要なることたり。

第五款 公務並に自由業(或は専門的業務)

吾國現時婦人職業問題として教育者間に論争あるものは多くは之れ等の種類に屬する婦人職業なり。新聞雜誌及び二三書籍の存在するもの亦た悉く然らざるはなきなり。然り而して理論上に於ける可否如何は兎も角實際に於ては之れ等の職業的婦人は著しく増加しつゝあり。例へば小學校、女子師範學校及び高等女學校に通勤しつゝある女教員の如きも三十年に於て一萬〇二百二十七人なりしもの三十六年の調査にては實に一萬九千六百十人となり僅々六年間に殆んど二倍の大増加をなせり。又産婆は卅四年の調査にて二萬五千四百八十五人ありき。髮結婦人の如きも單に東京府下のみにても實に四千九百二十六人の多きに達すと云ふ。想ふに此種の有業婦人は歐米諸國に於ても假令實數に於ては敢て大ならずと雖も其増加の割合に到ては頗る強大なるなり。即ち獨逸に於ては一千八百八十二年と九十五年との間に於て五割三分二厘四毛の増加をなし、英國に於ては六割七分強にて各業中の最高度の増加の割合を呈し、米國は六割

二分九厘の増加をなせり。特に米國の如きは此種の有業婦人の數一千八百九十年に於て殆んど男子有業者の二分の一を占む。是れ米國が此種の婦人職業に於て著名なる所以なり。

吾國に於ても此種の婦人職業は所謂婦人の新職業として一般に奨励せられつゝあるの結果其有業者の増加亦著しきを見る。特に此種の婦人を養成するの目的に出づる各種の女子實業教育は近來實に破竹の勢を以て進歩しつゝあるあり。試に近時婦人の各種實業學校に於ける學生及び卒業生が如何に増加しつゝあるかを見よ。

(素より左表の中には商工農業に屬するもの亦多きも茲に便宜の爲め包括して述ぶ可し)

| 調査年 | 生徒 | 卒業生 |
|-----|-------|-----|
| 卅二年 | 二、四九〇 | 四二九 |
| 卅三年 | 二、四一三 | 七二四 |

| | | |
|-----|--------|-------|
| 卅四年 | 三、五六一 | 五七七 |
| 卅五年 | 八、一一六 | 一、一四六 |
| 卅六年 | 一五、五三九 | 二、〇九八 |

即ち生徒の数は僅々五ヶ年に殆んど七倍卒業生は四倍強の大々の増加をなせり。

又た吾國特許局の最近印行にかゝる特許審明分類表を見るに過去五ヶ年間の特許総數三千九十七件の中婦人の發明十三件あり、之れを數字の上より見る時は素より九牛の一毛に過ぎずと雖も最初發明されし卅四年度の二件より逐年其數を増加しつゝあるは確實なる事實なり。是れ亦た此種の婦人有業者の發達しつゝある一証として見るべきなり。

現今吾國に於て此種の婦人職業として發達しつゝあるものは、學校教師、産婆、看護婦、女醫、按摩、髮結業及び頃者世論の喧々たりし郵便電信事務員等となす。想ふに之れ等の職業の最も多くは是れ婦人の天性に適合するもの多し、單に婦人の能力上より見れば此種の職業を以て最も能く婦人に適するものなりと信せらる。唯た夫れ此種の職業は其婦人を吸収し得るの餘裕他の職業に比して甚だ少く爲めに求職者の供給忽ち過越の悲運に至るを遺憾とす。

第五章 近世に於ける婦人有業者増加の原因

歐米諸國に於ては拾九世紀の後半又た吾國に於ては明治の中年より一般に婦人有業者の激増したるは既に第三章及び第四章に於て畧述せる所なり。然らば即ち其如斯増加したる所以のものは抑も如何なる理由に基くものなるが、之れ等のことを闡究するは單に經濟學上に於て重要なるのみならず、又國家社會に採り頗る緊要なることたり。然りと雖もこの事たる其關係する所廣大なると同時に各國其國情を異にするが故に各國に通ずる一般的原因を求むるが如き容易の業にあらざるも大同を採り小異

を捨て其の原因中重なるものとして余輩の借する所のものを列記すれば大凡左の如し。

- 第一婦人の家庭内の活動に余力を生せしこと。
 - 第二婦人の従事すべき職業多様となりしこと。
 - 第三一般社会に於ける男子労働力の不足せること。
 - 第四一般社会に於ける婦人労働力の餘裕あること。
 - 第五家族的収入の不足せること。
 - 第六婦人の經濟的獨立思想勃興せること。
 - 第七歐州諸國に於ける婦人の過剰なること。
- 是れなり。乞ふ余輩をして少しく之れを論せしめよ。
- 第一婦人の家庭内の活動に余力を生せしこと。

ツアーン氏は獨逸に於ける一千八百八十二年より全九十五年に至る十三年間の有業婦人増加の理由を説明して曰く。凡そ婦人の自然的労働範

圍は國民の生産的經濟にあるにあらずして、家庭の整理にあるなり。然るに近世商工業の急激なる勃興により従來家庭或は家内に於て營み來りし婦人の職業中の或るものは例へば絲を紡ぎ機を織り衣服を縫ふ等の如しは家族的經濟(Hauswirtschaft)より分離して獨立せる職業となり其結果婦人の家族的生産の範圍縮小して家族經濟は殆んど全く消費經濟となり婦人は主として之れ等消費經濟に於ける消費の整理に任ずるのみなるに至る。於是か婦人は従前に比し其家庭内に於ける活動に余力を生じ茲に家族經濟以外に職業を求むるに至りしなり。……思ふに此事たる單に獨逸に於てのみ然るにあらず一般諸國に於て有業婦人の増加したる一大原因ならずんばあらざるなり。素より婦人の自然的労働の範圍が果して家庭内に限らるゝものなりや否やは後章に於て論ずる所あるが故に今茲に之を述べすと雖も近世商工業特に工業の急激なる勃興により従來家庭内に於て營まれたる各種の仕事が多く専門的職業者の爲め奪はれ爲めに婦人の

家庭内の活動に餘力を生せしことは争ふ可からざる事實あり。例へば吾國に於て從來中流以下の農家に於ては其家族に供する綿布は多く其家女の手によりて成りし者なりしと雖も今や寒村僻地の貧家を除きては自家に於て其家族の用に供す可き布帛綿絲を製するもの殆んど皆無にして専門的工場に於て専門的工女によりて織りたるものを購買して着用するに至れるが如きは最も著名なるものとす。且つ夫れ近世科學特に各種機械の應用發達は一般に人類勞働の効果を大ならしむるが故に從來三人の婦女を用せし家庭も今日は二人にて尙餘裕あらしむるに至れり。

如斯種々の方面に於て婦人の家庭内に於ける勞働の範圍は縮少せり。其餘力を生せし婦人が家庭以外の報償的勞働即ち職業に従事するは自然の勢と云ふ可し。故に曰く婦人の家庭内に於ける餘力の存在は婦人有業者増加の一原因ありと。而して此家庭内に於ける婦人の餘力は將來商業の發達すると共に益其大を加ふ可く従つて婦人の職業に對する機會も

亦た愈増加するの傾向を有するものなり。

第二婦人の従事す可き職業の増加したること。

婦人の従事す可き職業の増加したる原因を尋ぬるに其主たるもの二つあり。即ち新職業の發生したること及び從來存在せし職業又は勞働が分業的となりたるにより茲に婦人に適當なる職業發生せること是れなり。今下に之れ等の二つのことにつき畧述すべし。

(甲)從來存在せし職業或は勞働が分業的となりたるにより婦人に適當なる職業發生せること。

晩近に於ける一般社會の進歩特に商工業の急激なる勃興は事物をして益専門的とならしめ分業をして愈細密とならしむ。就中各種機械の使用は大に人類の體力腕力を補助し從來男子の強大なる腕力によるにあらざれば到底不可能なりし各種の職業或は勞働も今は然らずして婦人の纖弱なる體力を以てして尙ほ能く従事し得るのみならず其勞働の效果に至り

ても昔日と殆んど同日の論にあらざるに至れり。且つ夫れ從來男子によりて營み來られたる各種の職業も分業の應用により同一の職業中に於て種々の専門的労働を出現せしめ爲めに婦人の體力を以て従事し得るが如き労働も亦出現するに至れるは世人の熟知する所なり。或る學者曰く近世に於ける産業の勃興は男子をして女性的傾向を増長せしむと。蓋し是れ各種機械の發達が腕力體力の代償をなし爲めに婦人の従業を容易ならしむる状態を云ひしに外ならざるなり。

(乙) 新職業の發生したること

甲に於て述べたる所のものも亦之れを廣く解するときは新職業の發生と見得べしと雖も茲に所謂新職業とは未發の新事業勃興に伴うて生じたる新職業を云ふなり。即ち甲者は從來存在せし職業が分業又は分離したるにより其間に婦人の従事す可き職業の生じたることを云ふと雖も是に所謂新職業とは近世に於ける發明又は發見の結果に基く新事業の發生に

より新たに婦人の従事す可き職業發生したることを云ふなり。例へば彼の交通機關として新たに鐵道の發明されしにより之れに伴うて、札賣、計算員等の婦人の新職業の起りしが如き或は又た彼の通信事業としての電話事業起りて婦人の電話交換手の業新に發生せしが如き是れなり。

上述せるが如く婦人の職業的機會は二つの方面より増加せられたり。其職業的需用の存する所に姉女子の趨馳し茲に従業者を増加せしめしは自明の理と云ふ可し。

第三、男子労働力の不足せること。

ラウフベルヒ氏は千八百八十二年より九十五年の間に於ける獨逸有業婦人の増加したる理由を説明して曰く、獨逸に於て百有餘萬の有業婦人の増加したるは是れ男子の労働は其全部を提供したりと雖も尙ほ且労働市場の需用を満足せしむると能はざる故、其不足を填補せんが爲めに生せし現象なりと想ふに男子労働力のみを以て労働市場に於ける労働の需用を

満足せしめ得ざるは單に一千八百八十二年と九十五年との間に於ける獨逸のみならず各國一般に然らざるはなきなり。試に各國に於ける男子の有業者の狀態を見るに其男子有業者の數に於て中位を占むる獨逸に於ても職業的無能力と見るべき十四歳以下の幼年者を除けば有業男子の男子總數に對する割合は實に九割〇七厘に相當す。(各國對照表参照)若し夫れ更に一國人口中に於て從業の能力を缺失するものと見るべき廢疾及び癩癩、白痴者及老衰者等を控除すれば一般に男子有業者の男子總數に對する割合は一層大なる可く殆んど徒食者を除す能はずと云ふも敢て不可なきなり。獨逸にして尙ほ如斯。伊多利及び埃地利等に至りては一層甚だしきものあるべし。

經濟學の泰斗、アダム・スミス氏は曰く國家の職務は社會の進歩と共に益増加すと。豈嘗に國家の仕事のみならんや、之れを社會の方面より見るも將た之れを個人の方面より見るも各種の仕事の種類と分量とは益増加す

可きは理の最も明白なるものなり。無論此の増加は時代と國とにより多少の浮沈ある可きは明かなるが彼の十九世紀の後半特に其末年は歐米諸國並に吾國に於ても一般に商工業の勃興著しかりしのみならず其他各種國家的並に社會的事業の興隆頗る顯著なりし時代なりしかば勞働の需用は頗る強勢なるものありき。

斯の如くにして、商工業其他の事業の急激なる勃興は勞働市場に於ける勞働力の不足を生せしめたるなり。然れども男子の勞働力は遂に之れに應ずるの餘力を殘さず。是に於てか勞働力に餘裕ありし婦女子は此勞働市場の不足を填補せんが爲めに現はれたり。是れ十九世紀の後半に於て一般有業婦人の激増せる一大原因ならずんばあらず。

第四、婦人勞働力の餘裕あること。

此第四の原因は恰も第一の原因を繰返すが如き觀あるも實は然らざるなり。第一は婦人勞働力の餘裕を個人的方面より觀察したるものなりと

雖も今茲に云ふ労働力の餘裕は婦人の労働を社會なる見地より觀察するものなり。換言すれば前者は婦人の労働を個體的に觀察し後者は之れを團體的に觀察するものなり。上述せるが如く一般男子の労働力は殆ど其供給し得る極度に於て労働市場に供給したりと雖も婦人の労働力に至りては各國大に餘裕あり。即ち有業婦人の數に於ても歐米各國の中位にある獨逸に於て有業婦人の婦人全体に對する割合は一千八百九十五年に於いて拾四歳以下の幼年者を除くも僅かに三割六歩二厘に相當するに過ぎず。況んや一千八百八十二年に於てをや。之れを男子の九割七厘に比較すれば其差異の如何に大なるかを知るに足る可し。素より婦女子に於ては男子と異り家事の整理及び育児等の労働に従事せざる可らざるが故に一國に於て婦人總体舉て外部職業或は労働に従事するが如きことは到底不可能のことなりと雖も其如斯障害なく先づ従業の自由を有するものと見て可なる未婚者のみを以てするも一般に尙ほ労働力に餘裕あるなり。

今歐洲諸國に於て拾五歳以上の男女の配偶關係を見るに次の如き状態を呈す。(百分比例)

| 國名 | 拾五歳以上の男子 | | | 拾五歳以上の女子 | | |
|-----|----------|------|-----|----------|------|------|
| | 單身 | 既婚 | 寡 | 單身 | 既婚 | 寡婦 |
| 奧地利 | 四三、八 | 五一、三 | 四、八 | 四〇、〇 | 四八、一 | 一一、八 |
| 匈牙利 | 三一、五 | 六三、七 | 四、七 | 二二、〇 | 六二、八 | 一五、〇 |
| 瑞 西 | 四五、二 | 四八、〇 | 六、四 | 四一、五 | 四五、五 | 一一、三 |
| 伊多利 | 四〇、九 | 五三、一 | 六、〇 | 三三、二 | 五三、二 | 一三、六 |
| 佛蘭西 | 三六、〇 | 五六、五 | 七、五 | 三〇、〇 | 五五、三 | 一四、七 |
| 大親典 | 三九、五 | 五四、九 | 五、六 | 三七、三 | 五〇、九 | 一一、八 |
| 愛爾蘭 | 四九、三 | 四四、八 | 五、九 | 四三、五 | 四二、一 | 一四、四 |
| 白耳義 | 四六、〇 | 四七、五 | 六、五 | 四一、八 | 四七、一 | 一一、一 |
| 和 蘭 | 四二、二 | 五二、〇 | 五、八 | 三八、七 | 四九、八 | 一一、四 |

| | | | | | | |
|----|------|------|-----|------|------|------|
| 獨逸 | 四〇、九 | 五三、七 | 五、三 | 三六、五 | 五〇、八 | 一一、四 |
| 瑞典 | 四二、六 | 五一、九 | 五、四 | 四〇、八 | 四七、一 | 一一、〇 |
| 挪威 | 四三、三 | 五一、〇 | 五、六 | 四一、七 | 四七、〇 | 一一、一 |

即ち之れを各國に於ける有業婦人の割合と比較對照するに、伊多利及奧地利を除きて各國大体未婚婦女のみを吸收するとするも尙ほ多少の餘裕あるを見る。況んや既婚婦女並に寡婦にして従業するもの少なからざるに於てをや。即ち是れ十九世紀の後半に於て勞働の不足を告ぐるに及び餘裕ある婦人の勞働を以て之れを填補し茲に婦人の有業者を増加せしめし所以なり。故に婦人勞働力の餘裕は男子勞働力の缺乏と相對して、有業婦人増加の一原因をなすものと云ふべきなり。

第五、家族的收入の不足

運命の神は吾人の右手より産物を取り去りて亦た左手に他の害物を掌握せしめたり。佛國革命以後幸にして物質上無比の進歩をなせしと雖も

不幸にして忽ち經濟上に一大不平等を醸出し來れり。即ち先きには君主貴族の暴戾抑壓より免れし人民も今は又た資本家てふものゝ爲めに殆んど生殺與奪の權を握らるゝに至れり。貴族平民てふ區別は打破せられしと雖も富者貧者てふ新たな階級は恐忌す可き状態の下に發生し來れり而して此現象たる十九世紀の後半に於て特に其著るしきを見る。噫一得一失は社會の常態たる歟。現今の多くの人は政治上の自由を得たるが爲め經濟上の平等を賣れり。貴平の階級を廢せんが爲めに貧富の甚だしき新階級を起せり。然も其の趨勢日一日と甚だしきを加ふ。噫是れ果して眞に社會の發達を圖る所以なるか。果して眞に社會の幸福を増進する所以なるか。

且つ夫れ近時の社會は主として自由競争制度の基礎の上に立てり。隨て其生存競争の激烈なるに至るは是れ自然の勢と云ふべきなり。凡そ生存競争なるものは古來絶ゆることなく存在する所のものなりと雖も現代

の生存競争と古代の生存競争との間には大に其の趣を異にするものあり。換言すれば等しく是れ生存競争なりと雖も大に其内容を異にするなり。即ち古代の生存競争は生存の困難なるより來りしものにあらずして生存の方法を知らざるより來りしなり。例へば田園あるも之れを耕やすの方法を知らず、魚鳥あるも之れを捕獲する方法を知らざりしが如し。故に他人にして苟安全なる生活法を有すれば蠻行以て之を犯し是に競争起りしなり。然るに現時に於ては發明發見を重ねて其生活の方法を知悉し良法の畫策ありと雖も内容の實質に缺乏する所ありて競争するの止むを得ざるあり。換言すれば古代にありては人類と人類の欲する萬物は其平均を深ちたるも其の欲望を充たす方法に缺くる所ありて困難を來し近時の社會は人類と人類の欲する萬物との平均其度を失す。即ち人類の欲望を充たす可き財貨は一方に於て人類の増加と他方に於ては人類欲望の増加の兩方面的原因の下に缺乏するに至れるなり。其生活の爲に競争激

烈なるに至るは蓋し止むを得ざるなり。

素より近世經濟の發達は一般に國家或は社會の富を増加したるは勿論なりと雖も之れを個人的方面より觀察するときは少數の富豪を造らんが爲めに多數の國民を犠牲たらしめつゝあるなり。彼の日露の國交復舊の爲めに盡瘁せし現代の偉人ルーズベルト氏の有名なる熊手演説 *Mechanic* は同じく米國當世の雄辯家として將次期に於ける大統領候補者として著名なるプライアソンの金力政治 *Plutocracy* 撲滅の絶叫と共に等しく是れ米國富豪の専横を憤慨せるものなり。其他歐米諸國並に吾國に於ける學者政治家にして近世富豪の驕奢を慨嘆せる者決して僅少にあらざるなり。既に米國の或る州に於ては財産の最高額を限定せんとの法律案さへ事實として提出せられたりとは正しく新紙の報する所なり。而して如斯各國に於て富豪攻撃の聲喧々たる所以のもの。是れ十九世紀後半以後に於ける資本の集中並に貧富懸隔の増大せる結果のみ。換言すれば主として分配

其實を得ざる結果のみ。俸給並に賃賃の騰貴は物價の騰貴に伴はず。富豪は朱門華屋の婢幾十人の婢僕を使役し深達の紅圍に錦繡綾羅を纏て然も易々として萬金を得るに反し幾多の民衆は三伏の炎熱、嚴寒の霜雪、終日營々役々として而して尙ほ且つ漸く口腔を充たし得るに過ぎず。爲めに從來は一家父兄たるもの、収入能く其妻子弟妹を扶養して餘りありしと雖も今や然らず。國民としての最大義務たる初等教育をさへ其子弟に授くる餘裕なく年少の子女をして早く既に工場に驅り入るゝ父兄少なからざるにあらずや。或る新紙の報ずる所に由れば米國に於て有兒の婦人にして其夫に放棄せられ爲めに糊口に窮せる者殆んど百萬餘人あり。而して其原因を尋ぬるに主として其夫たる者の収入其妻子を養ふに足らず不得已之れを棄つるに至れるなりと。亦た以て如何に家族的収入の不足せるやの一斑を知るに足る可し。

衣食足而後知禮節とは是れ二千有餘年前に於ける聖哲の訓言然も尙ほ

動かす可らざるの眞理を包む。世の妻女たる者衣食の擔保なり。糊口の保證なくして何んぞ能く賢母たり良妻たることを得んや。是れ近時家族的収入の不足に伴ひて一般婦女が幾分のパンを得んが爲め職業を求むる所以にして有業婦人増加の一大原因ならずんばあらず。

第六。婦人の經濟的獨立思想の勃興せること。

余は本項に入る前に先づ經濟的獨立とは如何なるものなりやを一言せん。ステットソン嬢は之れを定義して曰く、經濟的獨立とは各人が其得たる所のものに對して直接に有形物を他人に與ふるか又は勞働を以て之れに報ゆるかを云ふ。換言すれば各人が受くる貨物(有形無形)は其の與へたる所のもの、報償たるが如き状態の下に生活するもの是れ即ち經濟的獨立と云ふなりと。思ふに此經濟的獨立なる詞は多く世人の使用する所なりと雖も其眞意に至りては敢て學者間に一致したるものなく嬢の如きも其自己の所見を表白したるに過ぎざるなり。余も亦た其眞意が果して何

れにあるやを確知せずと雖も普通世人の使用しつゝある所のものゝ意義に従へり即ち直接職業に従事するか或は他の方法により生活の資料を得て以て生計を立つるに外ならざる可しと思へり。

然らば即ち如斯經濟的獨立思想が如何にして婦人社會に勃興するに至りしか。余の考る所によれば此は二方面的原因より發生せるものなり。即ち第一は前に述べたる家族的收入不足の爲めに其自立心の覺醒せられしこと。第二は人生問題に其基礎を置くものにして即ち婦人も亦人類の一員として品格を養成せざる可らず。従て社會的活動の一つとして經濟的獨立をなさざる可らずとの思想勃興せること是れなり。換言すれば第一のものは外界の事情の爲めに起り第二のものは全く婦人自身の自覺に基くものなり。而して第一の原因に基きて起りたる獨立思想は主として下等勞働社會に於ける婦女子の精神界を支配し第二の原因の下に起りたる獨立思想は主として中等以上の職業に従事する婦女子の精神界を支配

せり。思ふに之れ等二方面の原因の下に勃興したる婦人の經濟的獨立思想は近時益々其勢を逞うし隠々の裏に婦人の思想界を支配しつゝあるなり。其有業婦人増加の原因をなせしこと敢て喋々を要せざる可し。

第七。男子に對する婦女子の過利あること。

前に挙げたる六個の原因は歐米並に吾國に共通する所のものなりと雖も此第七の原因は單に歐洲諸國のみに關するものなり。然も大に注意す可きものあるが故に今左に少しく述ぶる所あらんとす。

一般に歐洲は之れを亞細亞阿非利加及び亞米利加諸國に比し女子の過利なるは統計學者の等しく認むる所なり。即ち概算によれば男子一千人に對する女子の數亞細亞に於ては九百五十八人阿非利加に於ては九百六十八人亞米利加に於ては九百七十三人なるに歐羅巴に於ては一千二十四人に相當すと云ふ。今左に歐米諸國に於ける男女の比例を示さん。

男子千人に對する女子の數

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 那 威 | 一、〇九一 | 愛 爾 蘭 | 一、〇二九 |
| 蘇 格 蘭 | 一、〇七二 | 和 蘭 | 一、〇二四 |
| 瑞 典 | 一、〇六五 | 匈 牙 利 | 一、〇一五 |
| 英 威 | 一、〇六四 | 佛 蘭 西 | 一、〇一四 |
| 瑞 西 | 一、〇五四 | 白 耳 義 | 一、〇〇五 |
| 丁 抹 | 一、〇五四 | 伊 多 利 | 九八九 |
| 奧 地 利 | 一、〇四四 | 合 衆 國 | 九五二 |
| 獨 逸 | 一、〇三九 | | |

一般歐洲各國に於て斯の如く婦女子の過剰の生ぜし所以の理は素より一つにして足らずと雖も其重なるものは米國への移住即ち是れあり。蓋し移住は女子に於けるよりも男子に於ける方多ければなり。即ち歐洲各國より米國各州に移住する者百人に付男子は實に六十人の多きを占む。此結果米國に於いて一般に男子の過剰を生ずるに反し歐洲諸國に於て婦

女子の過剰を生ぜしむ。而して近來米國に於ける人口の急激なる増加は歐洲人の移住大なるを表示するものにして(米國人口の激増の原因は尙他に種々あるも)従つて歐洲各國に於ては益婦女子の過剰を來しつゝあるなり。コルレット嬢の言に従へば、英蘭及び威爾斯に於て人口構成上獨身を以て終らざる可らざるもの六人につき一人の割合にして又た倫敦市に於ては五人につき一人の割合なり。故に多く婦女は最早婚姻を度外視し終身獨身を以て貫かんが爲め一定の職業を求むるもの寡からずと。斯の如く男子に對する婦女子の過剰なることは素より微細なりと雖も又以て婦人有業者を増加せしむる一原因ならずんばあらず。特に中等社會以上の婦女子に於て然りとす。吾國の或る學者は歐米諸國と異り吾國に於ては男子に比し婦女子僅少あるの故を以て婦人職業の必要なしと云ふ。素より探るに足らずと雖も又た以て婦人の過剰の有業者増加の影響を及ぼす所以を知るに足る。余輩が歐洲に於ける有業婦人増加の一原因として數

ふるも亦た之れが爲めなり。

以上述ぶる所の七箇の原因は是れ十九世紀の末年に於ける各國有業婦人増加の一般的原因なり。其個々の國に於ける特殊なる原因たるもの亦た決して少しとせず。然れども是れ等は往々煩を増すのみなるを以て茲には之れを略す可し。

第六章 婦人職業と男子職業との關係

近世各國に於ける未曾有の物質的進歩特に商工業の急激なる勃興により一般に男女の勞働範圍を増加したると同時に或は從來婦人の職業たりしもの男子の職業となり或は男子の職業たりしもの婦人の職業となり或は又た新職業の起るありて男女の之れに趨馳するありて男女の職業的分配に多少の變動を興へたるは明らかなる事實なり。就中各種工業界に於ける機械の進入と分業の細密とは婦人の工業に職を求むるものをして容

易ならしめ且女子教育の進歩に伴ひ中等社會の婦女子にして職業界に投ずる者追日多きを加ふ。於是神經過敏なる論者は云ふ。女子有業者の増加は實に激甚なり。其賃金俸給の低廉なるは是男女職業上に於ける競争をして愈々大ならしめ男子の職業の多くは婦女子によりて奪掠せらる可しと。素より現今の社會に於て男女の間に職業の競争行はれつゝあるは事實なり。然れども是れ單に一少部分に於て然るのみ。其大部分に於ては男女職業分配は決して大なる變動なきなり。彼の近時米國に於て男子職業三百三種中婦人の従事し居らざるもの僅かに三種に過ぎざるの現象を見て職業の將來を配慮するものありと雖も是れ唯だ此現象を過大視するの結果ならずんばあらず。素より男子職業三百三種中三百種は婦人も亦従事しつゝありと云へば事甚だ重大なるが如しと雖も其内容を觀察すれば敢て驚く可きにあらざるなり。何となれば其婦人有業者の數に至りては頗る僅少にして之れを男子の有業者に比すれば眞に月鼈符壤の大差

あればなり。社會幾千百萬の人類中には或は婦人の如き男子あるべく又男子の如き婦人あるならん。而して此稀有なる男子の如き婦人が男子の如き職業に従事するは敢て怪むに足らざるあり。然と雖如斯婦人は前述の如く實に九牛の一毛のみ。之等の婦人を見て一般婦人の大勢を推測せんとするが如きは迂濶の甚だしきものなり。假令一少部の職業に於て男女の競争ありと雖も是只主として産業上の激變に伴ふ一時的の現象にして決して永續すべき性質のものにあらざるなり。彼のピールストルフは曰く將來男女の間に於ける明確なる職業分配より生すべきは是れ事物自然の性質上當然に起るべき現象なり。既に獨逸に於ても下等社會の職業に於ては男女の間に確然たる職業分配あるなり。唯多少の競争の行はれつゝあるは中等社會に於ける男女の間の職業分配に關してのみ。然れども是れ等は職業的大勢より觀察するときは決して重要ならざるのみならず。久しからずして分配の整然たるに至る可しと。是れ恐らく遠觀たる

に幾かる可し。乞ふ試に之れを吾國の男女職業状態に徴せよ。

吾國にありては古來殆んど男女の間に於ける大いなる職業的競争なるもの起りしことなく近時歐米諸國の影響を受けて多少の競争を見るに至りしと雖も之れを歐米諸國に比すれば到底同日の論にあらざるなり。即ち吾國に於ても下等社會の職業に於ては古來男女の間殆んど整然として動搖なきあり。偶工業界に機械の進入するありてより多少面目を變更せしものありと雖も幸にして男女の間に於ける職業上の競争は殆んど現出せざるのみならず將來に於ても恐らく亦た如斯なる可し。其競争の起りは男女の間に於てに、あらずして主として工業界に於ける女性相互間の競争なるなり。詳言すれば從來婦人によりて爲されつゝありし職業を同じく婦人が奪取するに至りしに外あらざるなり。即ち從來家内工業として個人的に小規模の下に營み來りし婦人の多くの職業は近世工業界に於ける機械の使用により大規模的工場的工業に従事しつゝある専門的女子

の爲めに奪はれたるなり。例へば從來家内工業として一般婦女子によりて最も多く營み來られたる機械業及び製絲業等は抑も何人の手より何人の手に移轉したるか。機械業は家族的生産事業の範圍より分離して所謂工場に於ける専門的織女の手に歸し又從來手繰によりて生産せられたる製絲業は絹絲にありては同じく工場的専門女工の手に移り絹絲にありては紡績工場に於ける女工の爲めに奪はれたるにあらずや。更に進んで農業界及び商業界を觀察するに男女職業上の競争の如きは殆んど其痕跡を求むること能はざるなり。

唯だ夫れ多少の競争の行はれつゝありと見る可きは歐米諸國に於けるが如く中等社會に屬する男女職業上にあるなり。然も是れ又た歐米諸國に於けるが如く激烈ならざるなり。蓋し吾國尙は未だ此種の婦人職業の範圍頗る狭少なるのみならず其既に婦女子の從事しつゝあるものに於ても其數多くは僅少なるを免れざればなり。而して假令是等一少部分の職

業に於て競争の存在しつゝあるものありと雖も是れ唯だ一時的の現象にして近き將來に於て必ずやビールストルフ氏の言の如く男女の間に劃然たる區別の存在するに至るは事物自然の勢なる可し。

更に一步を進めて考ふるときは或る二三特別なる場合を除き婦人は一般の場合に於て職業上男子と競争し得るものにあらず。換言すれば、婦人は到底職業競争上に於て、一般に男子に對して、一步を輸せざる可らざるなり。今左に少しく其理由を論ずる所あらしめよ。

一言にして之れを云へば職業上に於ては婦人は其能力上智能、体能の兩者を包む並に境遇上到底男子の如くなる能はざるなり。能力上婦人が男子よりも劣ることは後章に於て述ぶる所あるが故に茲には言はず。何をか境遇上婦人は到底男子に及ばすと云ふか。曰く第一、婦女子は一般に男子の如く家族及故郷を去つて自由に行動すること能はざると是れなり。第二は家族的關係より來る制限是れなり。即ち家政にして甚だしく害せ

らるゝが如き場合に於ては女子の大部分特に有夫婦人及び寡婦の如きは其家政整理の爲め職業を操ること能はざるに至ること是れなり。第三は婚姻的關係は是れあり。即ち男子にありては婚姻をなせるが爲め特別に他に之れが爲め勢力を奪はるゝことなきが故に其職業的活動を繼續し得るのみならず其無形の心作用を激勵して一層其勢力を職業に傾注せしむ。雖も婦女子の中年に於ける婚姻は全く之れと反對の現象を呈するなり。即ち一方に於て婚姻は婦女子をして新たに勢力を傾注せざる可らざる職務を附加せしむると共に他方に於て無形的一種の心作用は其夫に對する依頼心を煥發せしめ以て職業的熱誠を減退せしむ。此二重の弱點は婦女として婚姻を免る可らざるものとすれば又た一般婦女子の到底避くる能はざる所たるあり。コルレット嬢が婦人の中年に於ける婚姻は是れ男子との職業競争に於て婦人の負はざる可らざるハンデキャップなりと云へる亦大に余輩の意を得たる所なり。最後に男子にありては下は一般労働

社會より上は富豪幾千萬の資産を有する者に至る迄殆んど皆何等かの職業に従事すと雖も婦女子にありては職業に従事せざる一階級あること是れなり。即ち中等社會以上の階級に屬する婦女子は一般に職業に従事せざるが故に此階級に屬する婦女子の類は是れ亦た婦女子が男子と職業競争に於て負ふ所の第二のハンデキャップたるなり。而して此階級の婦女子決して僅少にあらざるが故に此種のハンデキャップも亦た決して輕少にあらざるなり。

既に能力上に於て男子よりも劣る婦女子が其境遇上に於て更に如斯缺點を有す。職業上に於て男子に拮抗し能はざる亦た實に自然の理と云ふ可し。故に婦人の職業は多くは永續的にあらずして一時的なり。持久的にあらずして暫有的なるなり。是れ婦人が如何に辨駁せんと欲すと雖も到底能はざる所なり。斯の如きは單に吾人が理論上に於て然か云ひ得るのみならず事實も亦た明らかに之れを説明するなり。觀よ余輩が歐米の

婦人職業と職事との關係を述ぶるに當りて述べたる中年に於ける婦人有業者の僅少なる事實は何に基くものなるかを、又吾國に於ける各種の工場及び銀行、會社等の雇主が婦女の中年に於ける職業中止に對する嘆息は何によるものなるか、又た或る工業の雇主が有夫の婦人を雇入るゝことを嫌ふは是れ何故なるか、歐米に於ける中年の婦人有業者の少きは前にも述べたるが如く婦人は配偶を得れば忽ち其職業を放棄するもの多きの事實を表證するものなり、吾國に於ける工場并に銀行、會社等の雇主が婦女の中年に於ける職業中止を嘆息するも亦た婚姻により職業を廢棄し爲めに其漸く修習せる技能を水泡に歸せしむるが故なり、或る工業の雇主等が有夫婦人の雇入れを嫌ふ所以のものは家事の爲め缺勤多きが爲めなり、世之れ等の理由を外にして何んぞ他故あらんや、ビールストルフ氏が職業上に於て、婦人は第二位にありと云ひしも亦た動かす可らざるの眞理なる可し。

上述せるが如く婦人は職業界に於ては到底男子に拮抗すること能はずして一步を男子に輸せざる可からざるなり、近世商工業の勃興特に工業界に於ける機械の利用が一般に婦人の職業を多様にし従て婦人有業者の數を増加せしめ其増加の割合男子よりも強大なりと云ふも是れ唯單に關係的に然か云ふのみ、其絶体的増加に至りては之れを男子有業者の増加に比すれば到底及ばざること遠し、余輩を以て之れを考ふるに婦人の職業は單に男子に拮抗する能はざるのみならず、反て男子の補充的性質を有するものなり、換言すれば婦人の労働は男子に比し第二位にあるのみならず男子の労働の缺乏を填補するものなり、乞ふ下に簡單に之れを論述す可し。

夫れ婦人は一般に其能力上(心力体力)境遇上職業的活動に關して大なる制限を有するも男子に於ては社會的活動をなし得るが如く造られたるものなりとのことは前已に論じたる所なり、従て其職業に對しても殆ど其

れ自身の自由意志に任じて活動し其取捨選擇意の向ふ所に従うて動く。婦女子にありては全く然らざるなり。故に何れの時代何れの社會に於ても勞働市場の缺乏を填補するものは先づ男子にして婦女子は多く二次的に補充の任に當るものなり。試に現時各國に於ける職業統計を見よ。男子にありては殆んど能力者舉て職業に従事しつゝあることは男子人口に對する有業者の如何に多きかを見て自ら明らかなる所なり。然るに婦人にありては然らず各國甚だしく餘裕の存在するものあるなり。故に社會に於ける一般職業の中樞たる要務は殆んど皆男子の掌握せる所たるは實に争ふ可らざる事實なり。試に之れを吾國の職業界につきて見よ。農業は比較的婦女子の従業するもの多き職業なりと雖も其勞働の中心とする所は男子にして婦女子は唯だ主として其家長たる者の勞働の枝葉たるに過ぎずして比較的重大なる心力及び体力を要する勞働は凡て是れ男子のみにより行はれ婦女子は比較的簡易なる勞働に於てのみ男子と相并んで

従事するものにあらずや。更に進んで商業及び交通業界に眼を轉ずるときは此補充的性質一層明瞭なるを見るべし。即ち斯業の活動の重要な部分たる家外的各種の活動は皆是れ男子によりて營まれ婦人は多く單純なる家內的の勞働に従事するあるに過ぎざるなり。唯だ夫れ工業界に於ける纖維的工場に於ては之れが例外を爲すの觀なきにあらずと雖も未だ以て一般勞働市場の大勢を動かすに足らざるなり。一般職業界或は勞働界より觀察するときには到底男子の補充的性質たるを免れざるなり。且つ夫れ婦女子の職業的範圍狭少なると既有職業に對する執着力の比較的強きことは大に職業の選擇變更を妨げ婦女子にして一度一定の職業を得れば假令比較的不利なるも之れを放棄せざらしむ。加之男子が不利と見て棄却せる職業も苟も婦女子の能力にして可能ならば採て以て之れを踏襲するが如き現象亦た少からざるなり。彼の獨逸の農業界に於て男子有業者の減退したるに拘らず婦女子の反て増加したるが如きは其好例たるな

り、即ち獨逸に於ける商工業の急激なる勃興は多くの農民壯丁をして不利なる農業を去て之れに趨馳せしめたるが故に婦女子は其後を填補したるによりて生ぜし現象なり、而して如斯現象は單に農業界に於てのみならず商工業界に於ても吾人が常に目撃する所なり、思ふに男子の労働は現時何れの國に於ても殆んど供給し得る限度に於て供給し最早屈伸の餘地を存せざるなり、故に假令労働の一時的急激なる需用等の起るあるも殆んど之れに應ずること能はざるなり、然るに女子の労働にありては尙ほ未だ大に餘裕あるなり、故に如斯場合に於ては全く女子の労働に待たざる可からざるなり、彼のシユモラー氏は婦女子の労働を以て一般労働市場に弾力性を與ふるものなりと云ひ呼んで以て労働市場に於けるベツエグリツヘーエレメント (Dagewerkliche Element) なりと云へるも、又た此状態を指したるなる可し。

如斯一般労働界或は職業界の骨髄たり主幹たる可きものは殆んど是れ

男子によりて組織されつゝありと雖も殆んど其屈伸の作用を缺き婦人の労働或は職業は筋肉たり枝葉となりて以て其缺を補ふ、是れ余輩が婦人の職業を以て補充的なりと云ふ所以なり、即婦人の職業或は労働は原則として男子の職業或は労働の消長如何によりて變動するものなり、詳言すれば男子の職業或は労働の缺乏大なれば婦人の職業或は労働大にして之れに反して男子の職業或は労働増加すれば婦人の職業或は労働減少するなり、而して此補充的性質或は彈力的性質をして最能く現はれしむる所以のものは戦時にあり、彼の歐州中世封建時代に起りし戦争は男子をして産業界を去て旗鼓劔戟の裡に趨馳せしめたるの結果婦女子は經濟の負擔者となりて其労働的或は職業的空位を填補せざる可からざるの已むを得ざるに至れり、彼の佛國中世の花毛鹿の如きは斯の如き結果の賜ありと云ふ、又た彼の米國に於ける南北戦争の當時婦人の各種職業に従事する者の増加したるが如き又た近くは日露戦争中幾十萬の壯丁缺乏せる

に拘らず内國産業の敢て其影響を受けざりしもの亦た主として此婦女子
労働の補充的性質表現せるに外ならざる可し

斯の如く婦人の労働は男子労働の補充的性質を有するのみならず更に
一歩を進めて考ふる時は其婦人の労働或は職業によりて得らるる所の收
益も亦た是れ多くは一家々長たる男子の補充的たる性質を免る能はざる
なり。何とならば婦人の従業によりて得たる収入は婦人が依て以て獨立
的生活をなすの資たるよりも寧ろ最も多くの場合に於て父たり夫たる者
の収入の不足を填補するが爲めに使用せらるるものなればなり。

上述せるが如く婦人の職業は一般に補充的性質を有するものなりと云
ふと雖も余輩は決して是れが爲め婦人職業の効果僅少なりと云ふにはあ
らず。何となれば主は是れ従あるが爲めに其効を全うし得るものなるが
如く社會に於ける一般職業或は労働も婦人の補充的要素あるが故に其進
歩發達を見得るものあればなり。特に先年日露戰役中労働市場の中樞た

る可きの壯丁の缺乏したるに拘らず一般産業界の狀況敢て沈淪を見ざり
し所以のもの素より一にして足らずと雖も其婦女子の補充的效果與て力
ありしは又た喋々を要せざる所あり。要は唯相對的に云へるのみ。程度
の問題のみ。況んや婦人の有業者男子に比して僅少なりと雖も其絶体數
に至りては實に百萬の多きあるに於てをや。

第七章 婦人職業の得失

婦人の職業従事の可否如何の問題は輒近に於ける社會問題中重要な
一大問題なりとす。或る論者は婦人の従業は家庭の團樂を害し社會の幸
福安寧を妨害するものなりとして之れを抑壓せんとし又た他の論者は反
て家庭の幸福を増進し社會の進歩發達を助くるものなるが故に宜しく之
れを奨励すべしと云ふ。夫れ何れか是にして何れか非なる。何れか眞に
して何れが誤れる。多くの論者は或は唯單に道德上に於ける害惡の重大

なるを見て直ちに婦人の従業を否認し或は國民經濟上并に個人經濟上に於ける効果の鴻大なるを見て以て之れが必要を鼓吹す。余の考ふる所によれば此問題は重要な社會問題なるが故に其の關する所の範圍も亦た頗る廣大なり。されば此問題をば單に道德上或は國民經濟上等のみの方面より見て容易に論決し得可きものとは思はず。少くも左の四方面より精密に闡究することを要す。即ち

第一。道德上并に家庭上より見たるもの。

第二。能力上より見たるもの。

第三。個人經濟上より見たるもの。

第四。國民經濟上より見たるもの。

是れなり。蓋し婦人の職業従事は人生問題并に家庭と密接なる關係を有するが故に道德上及び家庭上より觀察する必要ある可く又た婦人の能力は果し男子の如く従業に堪へ得るや否や又た家族的收入は果して之れを

必要とすべきや否や又職業が生産的行爲なる以上は其國民經濟を基礎として其得失を考ふる時は如何等の如きは頗る重要な問題なればなり。余は先づ節を分ちて各別々に其得失を攻究し以て最後に之れ等を綜合して以て果して婦人の従業は是なるか否なるかを論決せんと欲す。

第一章 節

道德上並に家庭上より見たる婦人職業の得失

此道德上并に家庭上より見たる得失は婦人職業問題中最も困難なるものにして學者の見解の分るゝ所亦實に此方面より見たる得失問題にあるなり。余は本問題を論究するに當り便宜の爲め之れを二つに分たんと欲す。即ち一つは婦人の職業従事が道德上并に家庭上より見て果して必要なるや否を根本的に觀察するものにして第二は婦人が現實に一定の職業に従事するに當りて道德上社會をも包む并に家庭上に及ぼす利害より觀